

サイボウズ リモート  
サービス  
インストールマニユ  
アル

---

## 商標について

- 記載された商品名、各製品名は各社の登録商標または商標です。また、当社製品には他社の著作物が含まれていることがあります。

個別の商標・著作物に関する注記については、弊社のWebサイトを参照してください。

<https://cybozu.co.jp/logotypes/other-trademark/>

なお、本文および図表中では、(TM)マーク、(R)マークは明記していません。

---

# 目次

---

1 章 運用前に .....	4
1.1. 導入の流れ .....	4
1.2. インストールの前に確認すること .....	5
2 章 インストール .....	8
2.1. リモートサービスマネージャーで使用する用語 .....	8
2.2. Windows環境にインストールする .....	10
2.3. Linux環境にインストールする .....	17
2.4. 初期設定を実行する .....	23
2.5. ファイル構成 .....	31
2.6. サーバーを移行する .....	35
3 章 バージョンアップ .....	39
3.1. Windows環境でバージョンアップする .....	39
3.2. Linux環境でバージョンアップする .....	48
3.3. サイボуз Officeとリモートサービスをあわせてバージョンアップする .....	53
4 章 アンインストール .....	55
4.1. Windows環境でアンインストールする .....	55
4.2. Linux環境でアンインストールする .....	59

# 1章 運用前に

---

リモートサービスマネージャーをインストールする流れや、インストール前に確認することを紹介します。

## 1.1. 導入の流れ

---

外出先や自宅のから、Webブラウザを使用し、サイボウズ製品にアクセスできます。システム管理者が、サーバーにリモートサービスマネージャーをインストールします。

### 補足

- すでにほかの用途のためにリモートサービスマネージャーをインストールしている場合は、改めてリモートサービスマネージャーをインストールする必要はありません。

### Steps:

- Step 1 [動作環境を確認します。](#)
- Step 2 [リモートサービスマネージャーをインストールします。](#)
- Step 3 [初期設定を開始します。](#)

#### Step 1

#### 動作環境を確認します。

詳細は、製品サイトの[動作環境](#)を参照してください。

利用製品がリモートサービスマネージャーに対応していることも確認します。

**Step  
2****リモートサービスマネージャーをインストールします。**

利用製品にアクセスできる環境にあるサーバーに、リモートサービスマネージャーをインストールします。

インストールする手順の詳細は、お使いの環境に合わせて、次のページを参照してください。

[Windows環境にインストールする\(10ページ\)](#)

[Linux環境にインストールする\(17ページ\)](#)

**Step  
3****初期設定を開始します。**

リモートサービスを使用するために必要な初期設定を開始します。

詳細は、[初期設定を実行する\(23ページ\)](#)方法を参照してください。

## 1.2. インストールの前に確認すること

インストールの前に確認することを説明します。

**注意**

- 同一のクライアント証明書を複数のリモートサービスマネージャーで使用しないでください。リモートサービスマネージャーが正しく動作しません。
- 製品側の画面内にインターネットからデータを取り込んでいる場合は、画面を表示するたびに警告画面が表示されます。

- 製品側の画面内にイントラネット環境からデータを取り込んでいる場合は、取り込んでいるデータは使用できません。
  - ウィルススキャンソフトを利用している場合は、（インストールディレクトリ）\temp配下をウィルススキャンソフトのスキャン対象から外す必要があります。
- 

### 補足

- **リモートサービスマネージャーとは：**

リモートサービスを使用するためにインストールするプログラムです。サイボウズがインターネット上に設置したサーバーとの間で、SSL（Secure Sockets Layer）による暗号化通信をします。

---

## ユーザーの権限

---

次のユーザーで、リモートサービスマネージャーをインストールするサーバーにログインしてください。

- Windows環境：サーバーのAdministrator権限を持つユーザー
- Linux環境：root権限を持つユーザー

## サーバーや対応製品の確認

---

お使いのサーバーやネットワーク環境が製品サイトに掲載されている[動作環境](#)と合っていることを確認します。

## 取得しているライセンス

---

ライセンスによって、リモートサービスマネージャーで設定できる機能が異なります。  
詳細は、製品サイトの[価格・見積・発注](#)を確認してください。

## 最新のインストーラーの入手

---

最新のインストーラーは、製品サイトの[ダウンロード](#)のページからダウンロードできます。

## 試用期間中にサードパーティー製品を利用製品として登録する場合

---

試用期間中は、すべてのサービスを利用できます。

ただし、試用期間中にサードパーティー製品を利用製品として登録するには、弊社Webサイトの[サードパーティ/認定製品接続のお申し込み](#)ページから申し込みが必要です。

# 2章 インストール

---

リモートサービスマネージャーを新規インストールします。

## 2.1. リモートサービスマネージャーで使用する用語

---

リモートサービスマネージャーで使用する用語を紹介します。

### インストール識別子とは

---

1台のサーバーに複数のリモートサービスマネージャーをインストールする場合に指定する、個々のリモートサービスマネージャーを識別するための文字列です。

使用できる文字は「a-z」、またはその後ろに「0-9」を付けたものです。インストール識別子は、10文字以内で設定します。

デフォルトで設定されているインストール識別子は、「cbrc」です。

### ポート番号とは

---

ポート番号とは、インターネット上の通信において、IPアドレスの下に設けられるサブアドレスのことです。

ポート番号は、リモートサービスマネージャーにアクセスするURLの一部として使用されます。リモートサービスマネージャーでは、1つのインストール識別子に対してポート番号を1つ使用します。

### FQDNとは

---



ドメイン名、サブドメイン名、ホスト名などを省略しないで、完全な形式でドメイン名を記述することです。

## クライアント証明書とは

---

クライアント証明書とは、リモートサービスを利用するときに、ユーザーを識別する証明書（SSL証明書）のことです。

クライアント証明書は、Webブラウザにインストールされるので、アクセスのたびにユーザー名とパスワードを入力する認証よりも、簡単にユーザーを認証できます。

リモートサービスのセキュアアクセスオプションが無効な場合、リモートサービスマネージャーとユーザーで、同じクライアント証明書（（リモートID）.pfx）を使用します。

- クライアント証明書のファイル名：

システム管理者が提供するクライアント証明書の種類によって、次のどちらかのファイル名が表示されます。

- （リモートID）.pfx
- （文字列）.pfx

## リモートIDとは

---

リモートIDとは、クライアント証明書に含まれる番号で、利用しているクライアント証明書を指定する番号です。

「R」のあとに7桁の数字が付きます。

## プロキシサーバーとは

---

プロキシサーバーとは、直接インターネットに接続できない企業などにある社内のクライアント端末に代わり、インターネットに接続するコンピューターのことです。

インターネット接続を一元管理し、内部からの特定の接続のみを許可したり、外部からの不正なアクセスを遮断したりするために使用されます。

### 同時接続数とは

---

サードパーティー製品に同時に接続できるユーザーの数です。アクセスが同時接続数を超えると、最終アクセス日時が古いユーザーのアクセスが切断され、新しいユーザーが製品にアクセスできません。

同時接続数は、リモートサービスマネージャーの「製品情報の詳細」画面で確認できます。

## 2.2. Windows環境にインストールする

---

Windows環境にリモートサービスマネージャーをインストールする手順を説明します。

### 1. インストールする環境を確認します。

詳細は、[インストールの前に確認すること\(5ページ\)](#)を参照してください。

### 2. 最新のインストーラーを入手します。

インストーラーは、製品サイトの[ダウンロード](#)ページから、ダウンロードしてください。

### 3. サーバーにダウンロードした「cbrs-rc-4.x.x.exe」をダブルクリックします。

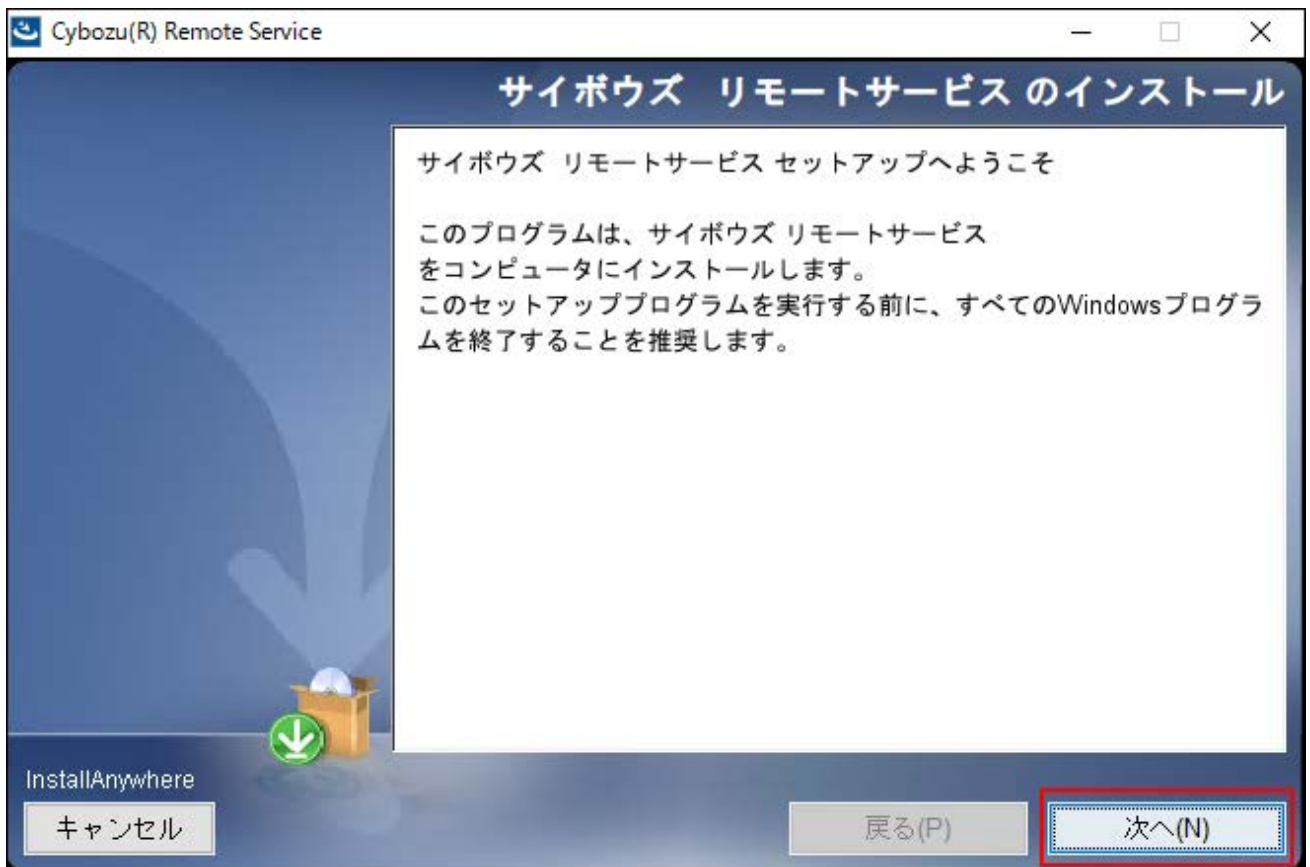
### 4. ドロップダウンリストから表示言語を選択し、[OK]をクリックします。

インストーラーが起動します。



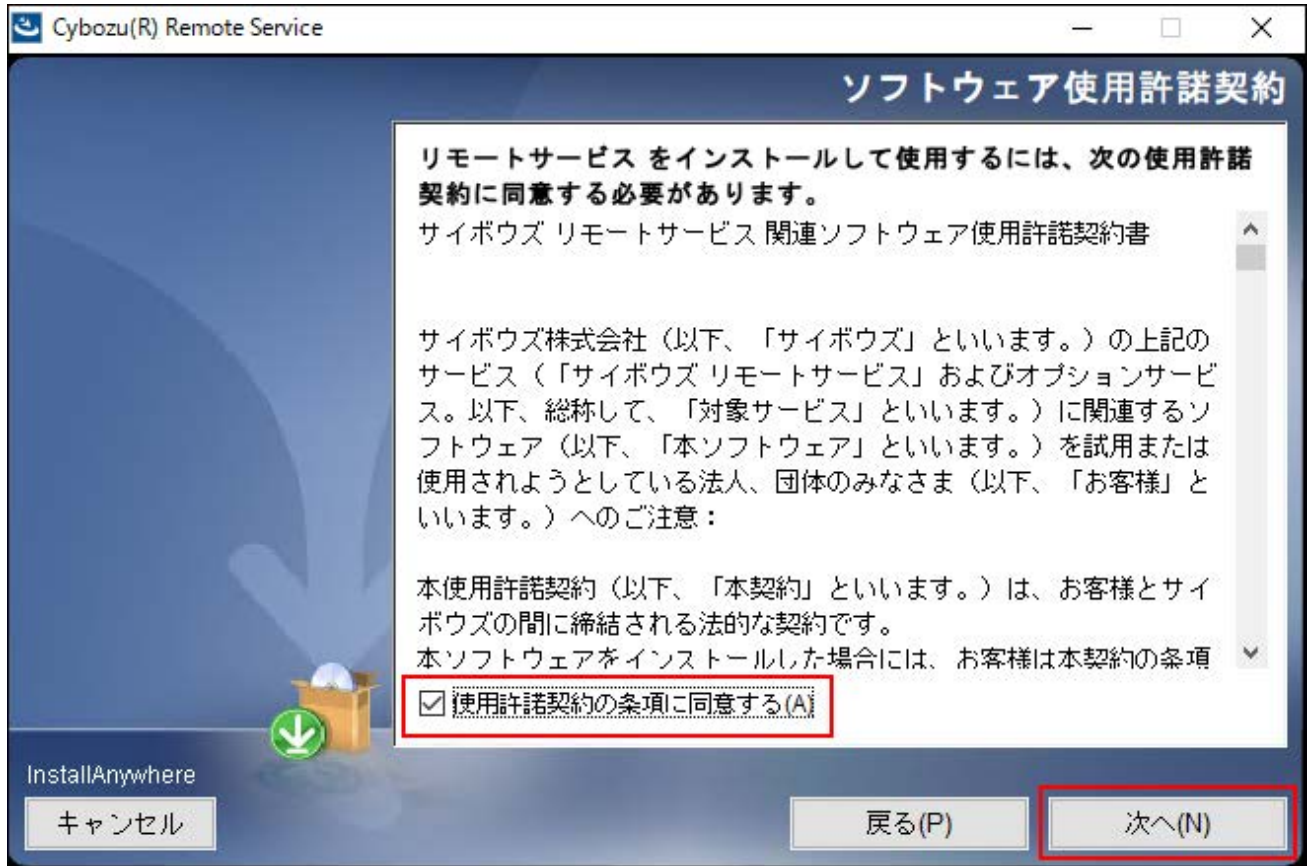
リモートサービスマネージャがすでにインストールされている場合は、新しくリモートサービスマネージャをインストールするか、またはバージョンアップするかどうかを選択する画面が表示されます。

#### 5. ようこそ画面で、[次へ]をクリックします。



6. 「ソフトウェア使用許諾契約」画面で、使用許諾契約書を確認し、同意する場合は「使用許諾契約の条項に同意する」のチェックボックスを選択し、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約に同意しない場合は、[キャンセル]をクリックし、インストールを中止します。

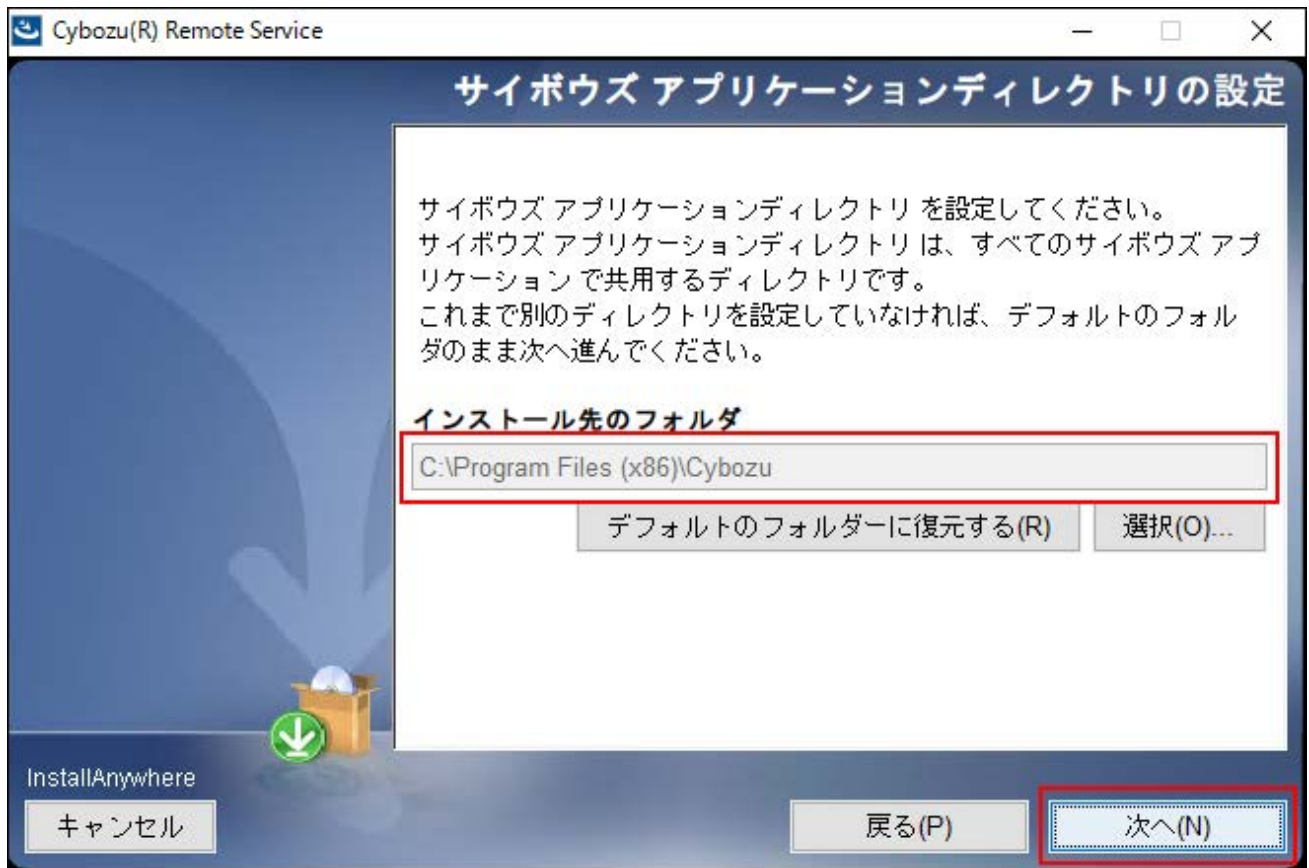


7. 「サイボウズ アプリケーションディレクトリの設定」画面で、インストール先のフォルダを確認し、[次へ]をクリックします。

通常は、表示されているフォルダのままで、選択し直す必要はありません。

インストール先のフォルダを変更する場合は、[選択]をクリックし、インストールするフォルダを選択します。

デフォルトで設定されているインストールフォルダに戻す場合は、[デフォルトのフォルダに復元する]をクリックします。



**8. 「インストール識別子の設定」画面で、インストール識別子を確認し、[次へ]をクリックします。**

インストール識別子は、通常は変更する必要はありません。ただし、複数のリモートサービスマネージャーをインストールする場合は、インストールごとに異なる識別子を設定する必要があります。

詳細は、[インストール識別子とは\(8ページ\)](#)という説明を参照してください。

[次へ]をクリックすると、リモートサービスマネージャーで使用するポート番号が自動的に検出されます。

詳細は、[ポート番号とは\(8ページ\)](#)という説明を参照してください。

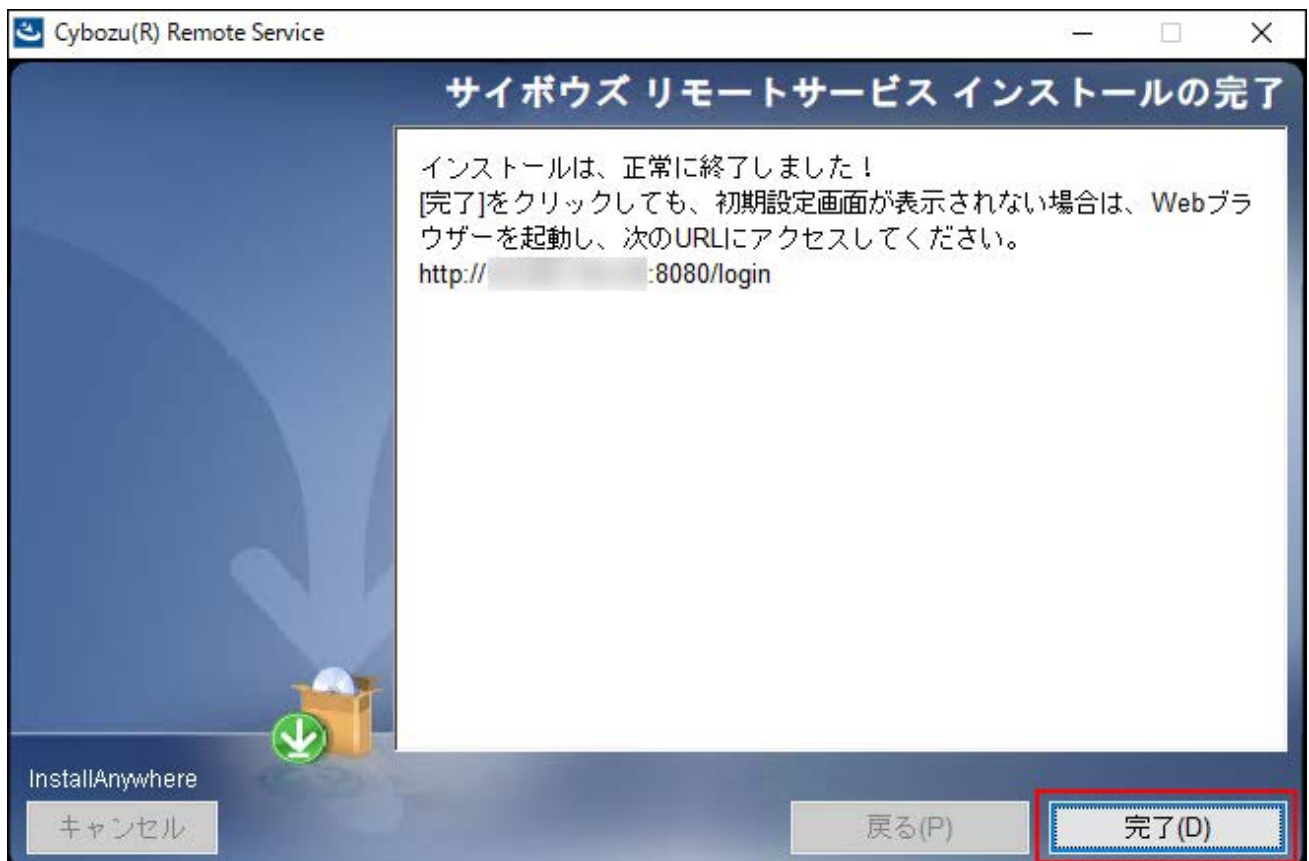


9. 「インストール準備の完了」画面で、設定を確認し、[インストール]をクリックします。

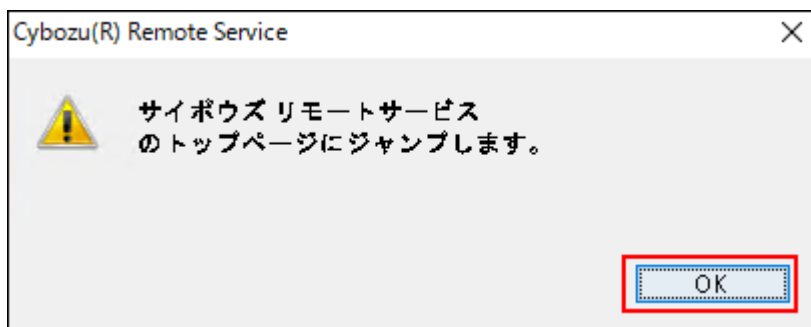
インストールが始まります。



## 10. 「インストールの完了」画面で、[完了]をクリックします。



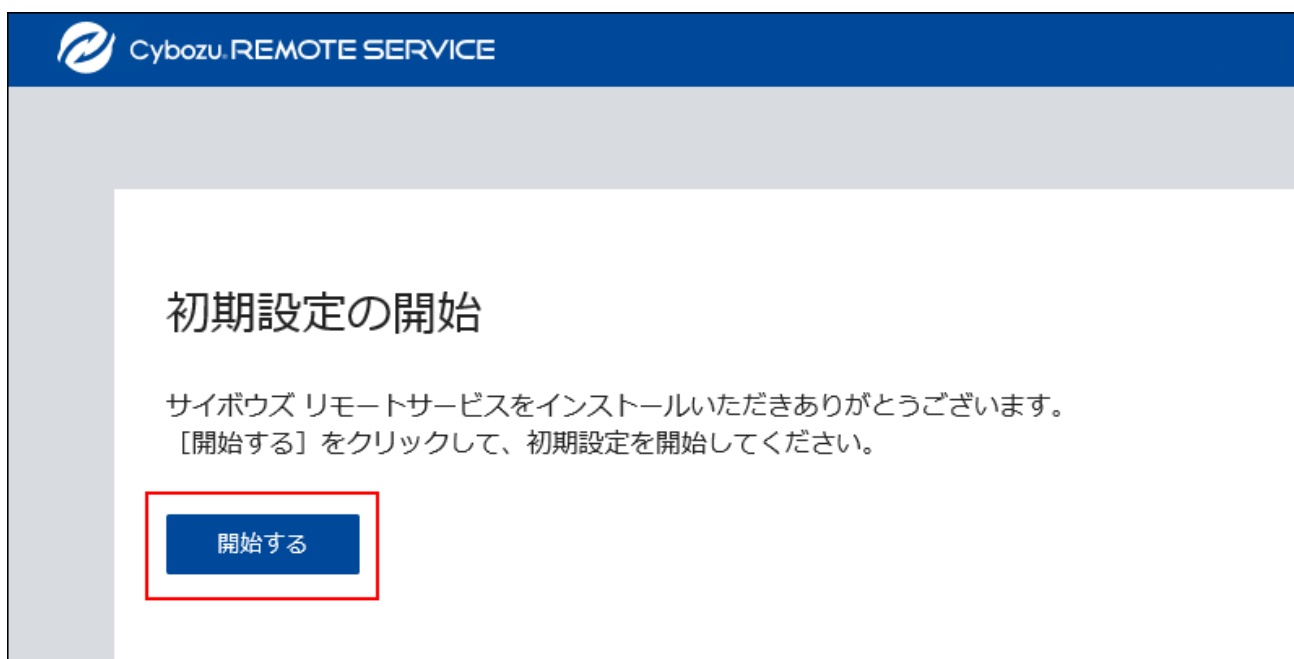
## 11. [OK]をクリックします。



「初期設定の開始」画面が表示された場合、インストールは正常に終了しています。

## 12. 「初期設定の開始」画面で、[開始する]をクリックして、初期設定を行い、動作を確認します。

詳細は、[初期設定を実行する\(23ページ\)](#)方法を参照してください。



### 注意

#### ・「初期設定の開始」画面が表示されない場合

手順11で「初期設定の開始」画面が表示されない場合は、Webブラウザを起動し、リモートサービスマネージャーを表示してください。



アクセスするURLは、次のとおりです。

**http:// (サーバーのIPアドレスまたはFQDN) : (リモートサービスマネージャーが使用するポート番号) /login**

FQDNについての詳細は、[FQDNとは\(8ページ\)](#)という説明を参照してください。

- サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、使用するポート番号が「8080」の場合の例：

http://192.168.1.1:8080/login

- FQDNが「bozuman.co.jp」、使用するポート番号が「8080」の場合の例：

http://bozuman.co.jp:8080/login

---

## 2.3. Linux環境にインストールする

---

Linux環境にリモートサービスマネージャーをインストールする手順を説明します。

### 補足

- インストールにはLinuxコマンドを使用します。Linuxシェル環境での作業経験がない場合は、Linuxサーバーのシステム管理者に協力を依頼してください。
- 

### 1. インストールする環境を確認します。

詳細は、[インストールの前に確認すること\(5ページ\)](#)を参照してください。

### 2. 最新のインストーラーを入手します。

インストーラーは、製品サイトの[ダウンロード](#)ページから、ダウンロードしてください。

3. サーバーにダウンロードしたインストーラー「cbrs-rc-4.x.x.bin」を適当なディレクトリに保存し、そのディレクトリに移動します。
4. インストーラーをshコマンドで起動します。

```
[root@localhost root]# sh cbrs-rc-4.x.x.bin
```

5. 画面を日本語で表示する場合は「2」、英語で表示する場合は「1」を入力してから、Enterキーを押します。

英語表示の画面では、「->2- 日本語」の部分が文字化けします。インストールする環境によっては、日本語が表示されない場合があります。

```
=====
Choose Locale...
-----
1- English
->2- 日本語
CHOOSE LOCALE BY NUMBER:
```

リモートサービスマネージャーがすでにインストールされている場合は、複数の製品をインストールするか、またはバージョンアップするかどうかを選択する画面が表示されません。

```
=====
===
サイボウズ リモートサービス
-----

サイボウズ リモートサービス セットアップへようこそ

すでに サイボウズ リモートサービス
がインストールされています。
新たに サイボウズ リモートサービス
をインストールするか、インストール済みの サイボウズ
リモートサービス
をバージョンアップするかを選択してください。

1- 新たにインストールする
->2- バージョンアップする
```

選択する項目の番号を入力するか、  
デフォルトを使用する場合は ENTER キーを押してください:

## 6. インストール作業を続行する場合は、Enterキーを押します。

```
=====
===
サイボウズ リモートサービス
-----

サイボウズ リモートサービス セットアップへようこそ

このプログラムは、サイボウズ リモートサービスを
コンピュータにインストールします。

続行するには ENTER キーを押します:
```

## 7. 画面が日本語で表示されている場合は、Enterキーを押し、使用許諾契約を確認します。

英語で表示されている場合は、インストールディレクトリにある「LICENSE\_JA.txt」で使用許諾契約を確認できます。

詳細は、[ファイル構成\(31ページ\)](#)を参照してください。

## 8. 使用許諾契約に同意する場合は、「Y」を入力して、Enterキーを押します。

使用許諾契約書に同意しない場合は、「N」を入力してからEnterキーを押して、インストールを中止します。

```
この使用許諾契約の条項に同意しますか。(Y/N) :
```

## 9. インストール先のディレクトリを確認し、Enterキーを押します。

通常は、インストール先のディレクトリを変更する必要はありません。何も入力せずにEnterキーを押します。インストール先のディレクトリを変更する場合は、絶対パスでインストール先を指定します。

```
=====
===
サイボウズ アプリケーションディレクトリの設定
-----

サイボウズ アプリケーションディレクトリ
を設定してください。
サイボウズ アプリケーションディレクトリ は、
すべてのサイボウズ アプリケーション
で共用するディレクトリです。
これまで別のディレクトリを設定していなければ、
デフォルトのフォルダのまま次へ進んでください。

[/usr/local/cybozu/] : (デフォルト: /usr/local/cybozu):
```

## 10. インストール識別子を確認し、Enterキーを押します。

通常はインストール識別子を変更する必要はありません。何も入力せずにEnterキーを押します。ただし、複数のリモートサービスマネージャーをインストールする場合は、インストールごとに異なる識別子を設定する必要があります。

詳細は、[インストール識別子とは\(8ページ\)](#)という説明を参照してください。

```
=====
===
インストール識別子の設定
-----

インストールするアプリケーションの識別子を入力してください。

インストール識別子は、
インストールごとに異なっている必要があります。
(使用できる文字は、「a-z」、
もしくはその後に「0-9」をつけたものになります。また、
識別子の長さは10文字以内としてください。)
```

[cbrc] : (デフォルト: cbrc):

## 11. インストールの設定を確認し、Enterキーを押します。

インストールが始まります。

```
=====
===
インストール準備の完了
-----

インストールを開始する準備が整いました。

サイボウズ アプリケーションのディレクトリ:
/usr/local/cybozu

インストール識別子:
cbrc

サービスで使用するポート番号:
8080

上記の設定でインストールを開始してもよろしいですか？

インストールするには ENTER キーを押してください:
```

## 12. 完了メッセージが表示されたら、Enterキーを押してインストーラーを終了します。

これで、インストール作業は終了です。

```
=====
===
サイボウズ リモートサービス インストールの完了
-----

インストールは、正常に終了しました！
Webブラウザを起動し、次のURLにアクセスしてください。
http://***:8080/login

ENTER キーを押すと、インストーラーが終了します:
```

**13. Webブラウザを起動し、リモートサービスマネージャーにアクセスします。**

「初期設定の開始」画面が表示されれば、インストールは正常に終了しています。

アクセスするURLは、次のとおりです。

**http:// (サーバーのIPアドレスまたはFQDN) : (リモートサービスマネージャーが使用するポート番号) /login**

FQDNについての詳細は、[FQDNとは\(8ページ\)](#)という説明を参照してください。

- サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、使用するポート番号が「8080」の場合の例：

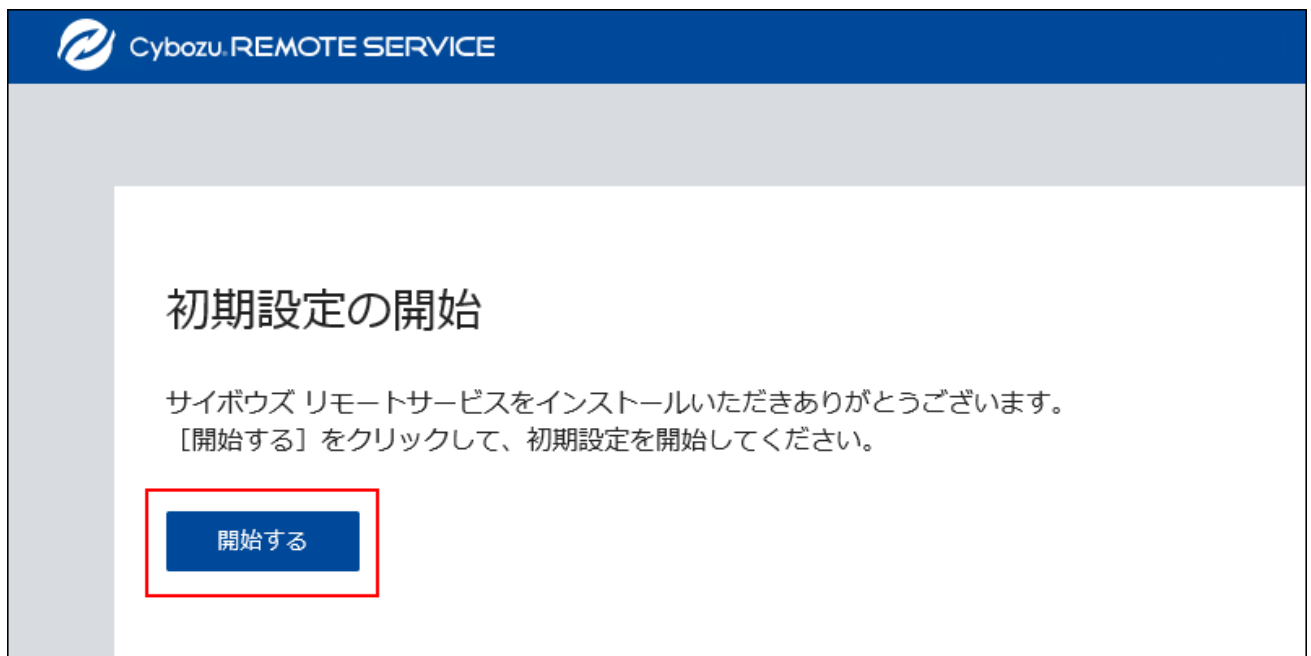
http://192.168.1.1:8080/login

- FQDNが「bozuman.co.jp」、使用するポート番号が「8080」の場合の例：

http://bozuman.co.jp:8080/login

**14. 「初期設定の開始」画面で、[開始する]をクリックして、初期設定を行い、動作を確認します。**

詳細は、[初期設定を実行する\(23ページ\)](#)方法を参照してください。

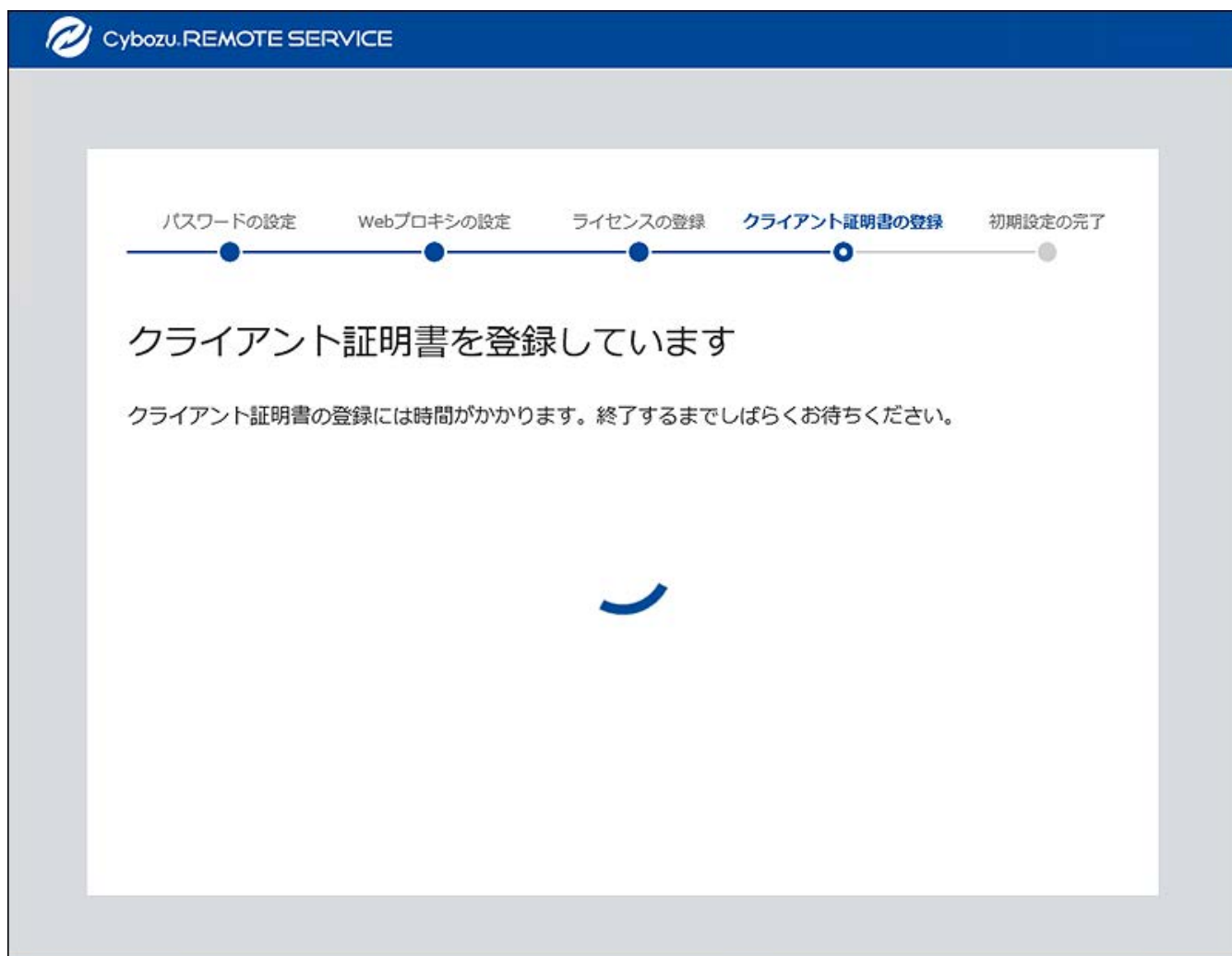


## 2.4. 初期設定を実行する

インストール作業が完了したら、リモートサービスマネージャーの初期設定を開始します。

### 初期設定の注意

- 同一のクライアント証明書を複数のリモートサービスマネージャーで使用しないでください。同一のクライアント証明書を複数のリモートサービスマネージャーで使用すると、リモートサービスマネージャーは正しく動作しません。
- クライアント証明書の登録には時間がかかる場合があります。登録中は次の画面が表示されます。登録中は他の画面に移動しないように注意してください。



## 初期設定を実行する

---

初期設定ウィザードにしたがって、初期設定を実行します。

リモートサービスマネージャーが中継サーバーに接続するには、初期設定でクライアント証明書の登録が必要です。

1. 「初期設定の開始」画面で、[開始する]をクリックします。



2. 「パスワードの設定」画面で、システム管理用のパスワードを2回入力し、[次の設定へ]をクリックします。

リモートサービスマネージャーの「システム管理」画面にログインするためのパスワードを設定します。

確認用とあわせて、2回パスワードを入力します。

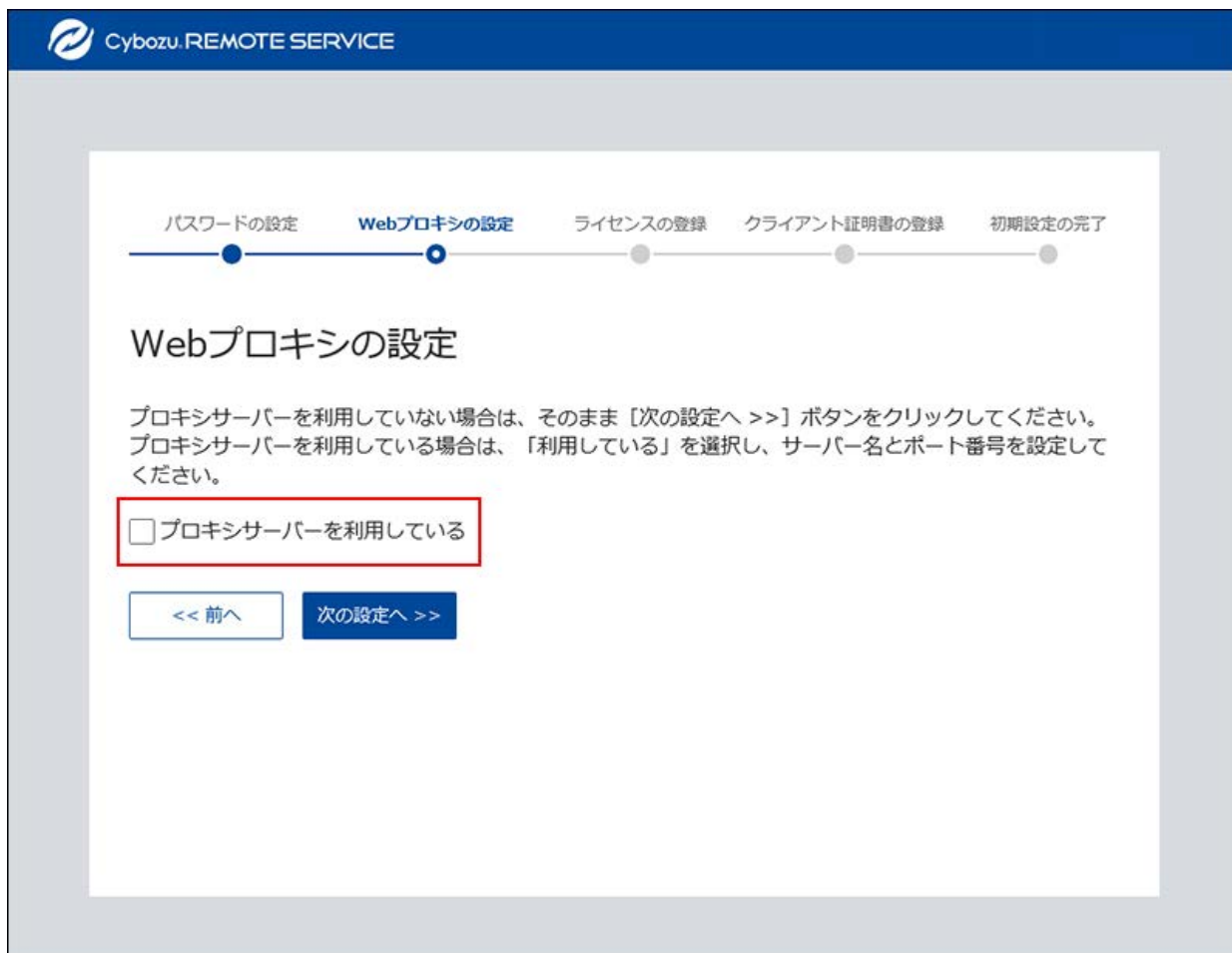


The screenshot shows the 'パスワードの設定' (Password Setting) step in the initial setup process. At the top, a progress bar indicates the current step is 'パスワードの設定', with other steps being 'Webプロキシの設定', 'ライセンスの登録', 'クライアント証明書の登録', and '初期設定の完了'. The main heading is 'パスワードの設定'. Below it, a message reads: 'システム管理画面にログインするためのパスワードを設定してください。' (Please set a password for logging into the system management screen). There are two input fields: 'パスワード' (Password) and 'パスワード (確認)' (Password (Confirmation)). A blue button labeled '次の設定へ >>' (Next Setting >>) is highlighted with a red box.

3. 「Webプロキシの設定」画面で、プロキシサーバーを利用しているかどうかを選択します。

• プロキシサーバーを利用していない場合：

「プロキシサーバーを利用している」のチェックボックスの選択を外したまま、[次の設定へ]をクリックします。



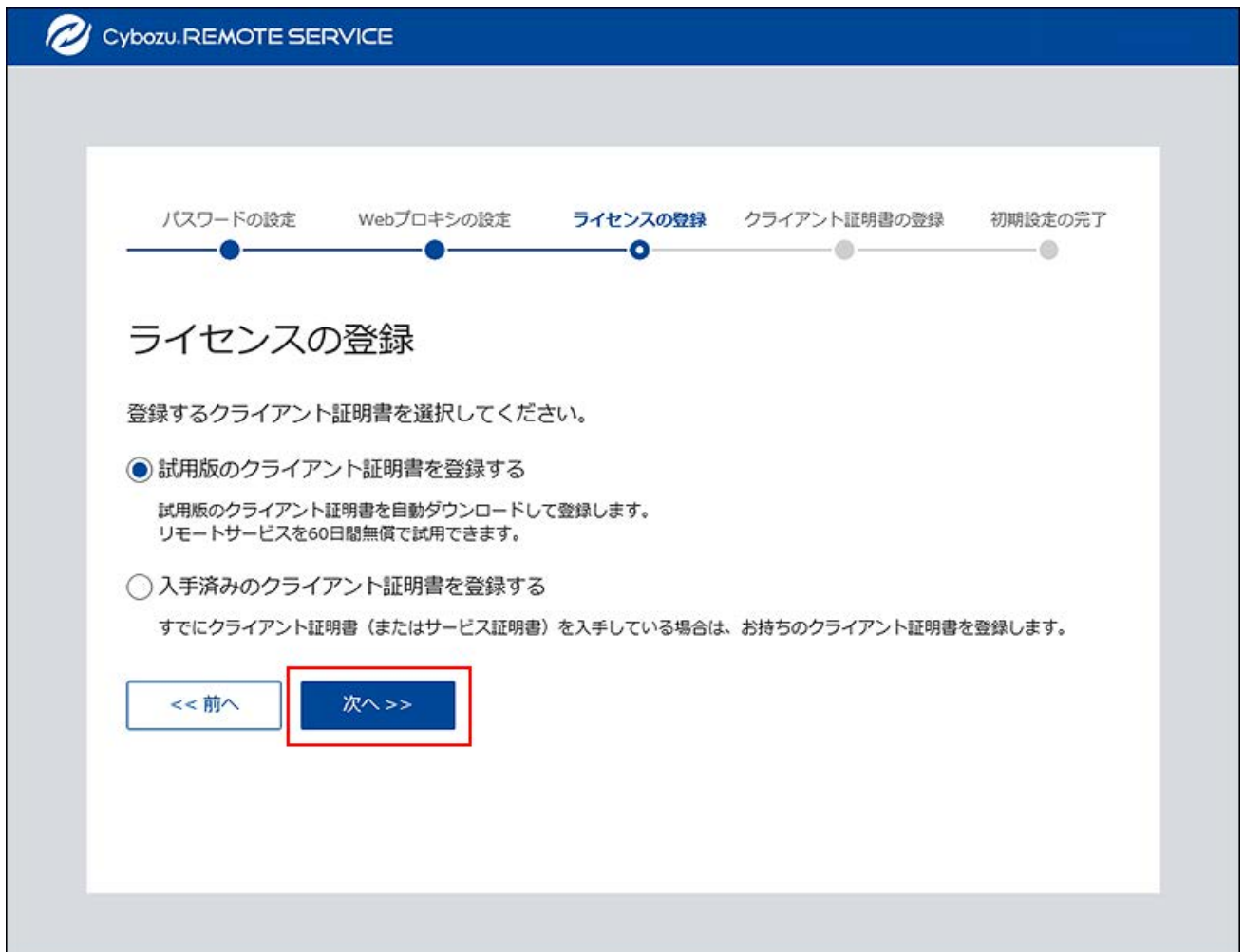
- **プロキシサーバーを利用している場合：**

「プロキシサーバーを利用している」のチェックボックスを選択し、サーバー名とポート番号を入力して、[次の設定へ]をクリックします。

The screenshot shows the 'Webプロキシの設定' (Web Proxy Settings) step in the initial setup process. At the top, a progress bar indicates the current step is 'Webプロキシの設定', with other steps being 'パスワードの設定', 'ライセンスの登録', 'クライアント証明書の登録', and '初期設定の完了'. The main heading is 'Webプロキシの設定'. Below it, instructions state: 'プロキシサーバーを利用していない場合は、そのまま [次の設定へ >>] ボタンをクリックしてください。プロキシサーバーを利用している場合は、「利用している」を選択し、サーバー名とポート番号を設定してください。' A red box highlights the '利用している' (Using) option, which is selected with a checked checkbox. Below this, a note says '【\*】は必須項目です。' (Required items are marked with \*). There are two input fields: 'サーバー名 \*' (Server Name) and 'ポート番号 \*' (Port Number). At the bottom, there are two buttons: '<< 前へ' (Previous) and '次の設定へ >>' (Next).

プロキシサーバーについての詳細は、[プロキシサーバーとは\(9ページ\)](#)という説明を参照してください。

4. 「ライセンスの登録」画面で、クライアント証明書の種類を選択し、[次へ]をクリックします。



選択できるクライアント証明書の種類は、次のとおりです。

• **試用版のクライアント証明書：**

リモートサービスを試用する場合は、「試用版のクライアント証明書を登録する」を選択します。

• **入手済みのクライアント証明書：**

サービス証明書をすでに入手している場合は、「入手済みのクライアント証明書を登録する」を選択します。

クライアント証明書についての詳細は、[クライアント証明書とは\(9ページ\)](#)という説明を参照してください。

## 5. クライアント証明書を登録します。

• **リモートサービスを試用する場合：**

「クライアント証明書の登録」画面で、サービスの試用規約を確認し、「サービス試用規約に同意する」のチェックボックスを選択し、[証明書を登録する]をクリックします。

Cybozu.REMOTE SERVICE

パスワードの設定 Webプロキシの設定 ライセンスの登録 **クライアント証明書の登録** 初期設定の完了

## クライアント証明書の登録

リモートサービスを試用するには、次のサービス試用規約に同意する必要があります。

サイボウズ リモートサービス ご試用規約

上部に記載されたサイボウズ株式会社（以下、「サイボウズ」といいます。）のサービスおよびそのオプションサービス（以下、「本サービス」といいます。）の申込みをされた法人、団体および個人のみなさま（以下、「お客様」といいます。）へのご注意：  
本サービスのご試用規約（以下、「本規約」といいます。）は、本サービスの内容および提供条件について、お客様とサイボウズの間締結される法的な契約書です。

サービス試用規約に同意する

<< 前へ 証明書を登録する

### • 入手済みのクライアント証明書を登録する場合：

サービス証明書がお手元にある場合は、記載されたリモートIDのクライアント証明書を、[クライアント証明書ダウンロード](#)から入手してください。

「クライアント証明書の登録」画面で、入手済みのクライアント証明書（zipファイル）を選択し、[証明書を登録する]をクリックします。



6. 「初期設定の完了」画面で、[システム管理画面へ]をクリックします。



これで、初期設定は完了です。

続いて、「システム管理」画面にアクセスし、利用する製品やユーザーを設定します。初期設定完了後に行うシステム管理者の作業については、次のページを参照してください。

- Webブラウザからアクセスする場合：[インストール後にシステム管理者が行うこと \(23ページ\)](#)

## 2.5. ファイル構成

リモートサービスマネージャーをサーバーにインストールすると、インストール先のディレクトリーの配下に保存されるファイルについて説明します。

初期設定でのリモートサービスマネージャーのインストール先は、次のとおりです。「cbrc」はインストール識別子です。お使いの環境に合わせて読み替えてください。

- Windows版：
  - 64bit OSの場合：  
C:\Program Files (x86)\Cybozu\cbrc
  - 32bit OSの場合：  
C:\Program Files\Cybozu\cbrc
- Linux版：  
/usr/local/cybozu/cbrc

### インストールディレクトリ

```
└ LICENSE_JA.txt: 使用許諾契約書 (日本語)
└ LICENSE_EN.txt: 使用許諾契約書 (英語)
└ LICENSE_CH_ZH.txt: 使用許諾契約書 (中国語簡体字)
└ TRIAL_JA.txt: 試用規約 (日本語)
└ TRIAL_EN.txt: 試用規約 (英語)
└ TRIAL_CH_ZH.txt: 試用規約 (中国語簡体字)
└ build.number: ビルド番号
└ redirect.html: リダイレクトファイル
└ Cybozu(R)_Remote_Service_バージョン番号_(インストール識別子)
  _)_InstallLog.log: インストール時のログ
└ uninstall.exe: アンインストールの実行ファイル (Windows版)
└ uninstall: アンインストールの実行ファイル (Linux版)
└ uninstall.lax: アンインストールのためにシステム側が用意するファイル
└ uninstaller.jar: アンインストールのためにシステム側が用意するファイル
└ installScript.iap_xml: インストール情報の補助ファイル
└ .com.zerog.registry.xml: インストール情報の補助ファイル
└ installvariables.properties: インストール情報の補助ファイル。インストール時
  の変数の値などが記録されます。
└ resource: システム側がアンインストール時に使用するファイル類を置くディレクト
  リー (Windows版)
└ 3rd_party_license: 外部ライブラリーのライセンスを置くディレクトリー
  └ license.html
  └ 3rd_party_license.zip: OSSのライセンスやソースコードがまとめられている
  アーカイブ
└ bin: リモートサービスマネージャーの起動プログラムを置くディレクトリー
  └ relay-client.jar: リモートサービスマネージャー本体の圧縮ファイル
  └ winsw.exe: Windowsサービス登録プログラム
```



- | | winsw.xml : Windowsサービス登録設定ファイル (登録時の設定)
- | | ServiceConfig.exe : Windowsサービス設定プログラム (サービスのリカバリーや起動設定をする)
- | | boot.sh : サービスの起動スクリプト (Linux版)
- | | relay-client.service : サービス設定ファイル (Linux版)。インストール中に、/etc/systemd/system配下にコピーされます。
- | | conf : リモートサービスマネージャーの設定ファイルを置くディレクトリー
- | | RelayClient.properties : リモートサービスマネージャーの設定ファイル
- | | logback.xml : リモートサービスマネージャーのログ設定ファイル
- | | <リモートID>.zip : リモートサービスマネージャーに設定したクライアント証明書アーカイブ。クライアント証明書を登録した場合作成されます。
- | | user.pfx : リモートサービスマネージャーに設定したクライアント証明書。クライアント証明書を登録した場合に作成されます。
- | | data : データベースファイルを置くディレクトリー
- | | remote.mv.db : データベースファイル
- | | certs : ユーザー発行クライアント証明書を置くディレクトリー。ユーザー発行のクライアント証明書を発行すると作成されます。
- | | logo : リモートサービスマネージャーのリモートポータルに設定したロゴファイルを保存するディレクトリー
- | | data\_backup\_<日付> : バージョンアップ前のdata ディレクトリーをコピーしたバックアップ。バージョンアップ時のみ作成されます。
- | | jre : 同梱しているJava
- | | logs : リモートサービスマネージャーのログファイルを置くディレクトリー
- | | RelayClient.log{.[1-7]} : リモートサービスマネージャーのトレースレベルのログ
- | | access.log{.[1-7]} : リモートサービスマネージャーが処理する通信のアクセスログ
- | | rsm\_access.log{.[1-7]} : リモートサービスマネージャー管理画面のアクセスログ
- | | Error.log{.[1-7]} : リモートサービスマネージャーのエラーレベルのログ
- | | device.log{.[1-7]} : MDMオプションを利用している場合の端末制御 (初期化処理) のログ
- | | call\_history.log{.[1-7]} : 利用端末の発着信のログ
- | | network.log{.[1-7]} : リモートサービスマネージャーのネットワークの接続状況に関するログ
- | | status.log{.[1-7]} : リモートサービスマネージャーの各製品や中継サーバーへのアクセスの滞留を記録するログ
- | | winsw.wrapper : リモートサービスマネージャーをWindowsサービスで起動した時のログ
- | | temp : 一時ファイル置き場

次のファイルは、Windows版にのみ保存されます。

### Logs

└ Cybozu(R)\_Remote\_Service\_バージョン番号\_InstallLog.log：インストール時にエラー（権限エラー以外）が発生したり、インストールをキャンセルしたりしたときに作成される場合があるログ

次のファイルは、Linux版にのみ保存されます。

### etc

└ systemd  
 └ system  
 └ cbrs\_【インストール識別子】.service：サービス設定ファイル

---

## 補足

- クライアント証明書 (<リモートID>.zipファイル) は、confフォルダーに保存されます。クライアント証明書 (<リモートID>.zipファイル) には、次のファイルが含まれます。

```
<リモートID>.zip
├ <リモートID>.pfx：クライアント証明書
└ Attention.txt：リモートサービスの操作に必要な情報
```

- **Attention.txtとは：**

Attention.txtは、ダウンロードしたクライアント証明書の中に含まれるテキストファイルです。Attention.txtには、リモートサービスへのアクセス方法やクライアント証明書のインポート用のパスワードなど、リモートサービスを利用するために必要な情報が記述されています。

---

## 2.6. サーバーを移行する

使用中のリモートサービスマネージャーを別のサーバーに移行する手順を説明します。

### 注意

- 移行元と移行先のインストール識別子を合わせる必要があります。  
例：
  - 移行元のインストール識別子：cbrc
  - 移行先のインストール識別子：cbrc
- 利用製品のサーバーとリモートサービスマネージャーのサーバーを同時に移行する場合は、利用製品のサーバーを移行した後に、リモートサービスマネージャーのサーバーを移行してください。  
利用製品のサーバーを移行したら、リモートサービスマネージャーで製品情報の更新が必要です。詳細は、[サイボウズ製品を更新する方法](#)を参照してください。

### Steps:

- Step 1 [利用中のリモートサービスマネージャーを停止します。](#)
- Step 2 [リモートサービスマネージャーのデータをバックアップします。](#)
- Step 3 [移行先のサーバーに、最新版のリモートサービスマネージャーをインストールします。](#)
- Step 4 [移行先のサーバーのリモートサービスマネージャーを停止します。](#)
- Step 5 [移行先のサーバーから、リモートサービスマネージャーのデータを削除します。](#)
- Step 6 [データを移行します。](#)
- Step 7 [移行先のサーバーで、最新版のリモートサービスマネージャーを上書きインストールします。](#)
- Step 8 [移行先のサーバーでリモートサービスマネージャーを開始します。](#)
- Step 9 [Webブラウザを起動して、移行先のリモートサービスマネージャーにアクセスし、動作確認をします。](#)
- Step 10 [移行元のサーバーから、リモートサービスマネージャーをアンインストールします。](#)

### Step 1

利用中のリモートサービスマネージャーを停止します。

詳細は、[リモートサービスマネージャーを停止する方法](#)を参照してください。

### Step 2

リモートサービスマネージャーのデータをバックアップします。

詳細は、[データをバックアップする方法](#)を参照してください。

### Step 3

移行先のサーバーに、最新版のリモートサービスマネージャーをインストールします。

インストール作業が終了したあと、「初期設定の開始」画面が表示された場合は、初期設定をせず、Webブラウザを閉じます。インストールの手順は、次のページを参照してください。

[Windows環境にインストールする\(10ページ\)](#)

[Linux環境にインストールする\(17ページ\)](#)

### Step 4

移行先のサーバーのリモートサービスマネージャーを停止します。

詳細は、[リモートサービスマネージャーを停止する方法](#)を参照してください。

### Step 5

移行先のサーバーから、リモートサービスマネージャーのデータを削除します。

削除するデータは、次のとおりです。

- (インストールディレクトリ) \data配下のすべてのデータ

**Step  
6****データを移行します。**

Step 2でバックアップしたデータを移行先のサーバーにコピーします。

移行元のリモートサービスマネージャーで、RelayClient.propertiesの内容を変更している場合は、移行先のRelayClient.propertiesの内容も変更します。詳細は、[データをリストアする](#)場合のStep 4を参照してください。

**Step  
7****移行先のサーバーで、最新版のリモートサービスマネージャーを上書きインストールします。**

上書きインストールには、Step 3で新規インストールする際に使用したインストーラーと、同じバージョンのインストーラーを使用してください。

上書きインストールする方法の詳細は、次のページを参照してください。

[バージョンアップする \(Windows環境\) \(39ページ\)](#)

[バージョンアップする \(Linux環境\) \(48ページ\)](#)

**Step  
8****移行先のサーバーでリモートサービスマネージャーを開始します。**

詳細は、[リモートサービスマネージャーを開始する](#)方法を参照してください。

### Step 9

Webブラウザを起動して、移行先のリモートサービスマネージャーにアクセスし、動作確認をします。

移行先のサーバーでリモートサービスマネージャーの「システム管理」画面にアクセスし、次の項目を確認します。

- 利用製品や利用ユーザーの登録内容が、移行元から引き継がれている。
- ライセンスの内容が、移行元から引き継がれている。

### Step 10

移行元のサーバーから、リモートサービスマネージャーをアンインストールします。

アンインストールする手順の詳細は、お使いの環境に合わせて、次のページを参照してください。

[アンインストールする \(Windows環境\) \(55ページ\)](#)

[アンインストールする \(Linux環境\) \(59ページ\)](#)

## 3章 バージョンアップ

リモートサービスマネージャーをバージョンアップする手順を説明します。

### 3.1. Windows環境でバージョンアップする

Windows環境で、リモートサービスマネージャーをバージョンアップする手順を説明します。

#### 注意

- 製品へのアクセスが少ない時間帯に、リモートサービスマネージャーをバージョンアップしてください。
- 最新版のリモートサービスマネージャーの[動作環境](#)は、64bit OSです。  
バージョン3のリモートサービスマネージャーを32bit OSで運用している場合は、64bit OSに移行したあとに、最新版のリモートサービスマネージャーにバージョンアップしてください。  
サーバー移行についての詳細は、[サーバーを移行する\(35ページ\)](#)方法を参照してください。

#### 1. バージョンアップする環境を確認します。

詳細は、[インストールの前に確認すること\(5ページ\)](#)を参照してください。

#### 2. リモートサービスマネージャーを停止します。

停止する手順は、[リモートサービスマネージャーを停止する](#)方法を参照してください。

バージョンアップが完了すると、停止したリモートサービスマネージャーが自動的に起動します。

### 3. 「サービス」画面を閉じます。

手順2でリモートサービスマネージャーを停止したあとは、必ず「サービス」画面を閉じてください。

「サービス」画面を閉じずにバージョンアップを続けると、バージョンアップに失敗することがあります。

### 4. リモートサービスマネージャーのデータをコピーします。

サーバーの故障やデータの誤削除などに備え、データのバックアップをとります。

必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

- (インストールディレクトリ) \conf\R\*\*\*\*\*.zip  
「R\*\*\*\*\*」は、リモートIDです。
- (インストールディレクトリ) \conf\RelayClient.properties
- (インストールディレクトリ) \conf\user.pfx
- (インストールディレクトリ) \data配下のすべてのデータ

バックアップ対象についての詳細は、[バックアップするディレクトリーとファイル](#)を参照してください。

### 5. 使用するメモリーの量、および作成するスレッドの数の設定値をメモに取ります。

#### •使用するメモリーの量：

- バージョン4.0.0以降から最新版にバージョンアップする場合：

使用するメモリーの量は引き継がれます。使用するメモリーの量をメモに取る必要はありません。手順6に進んでください。

- バージョン3.1.9以前から最新版にバージョンアップする場合：

バージョン3.1.9以前から最新版にバージョンアップすると、使用するメモリーの量が初期設定に戻ります。

使用するメモリーの量の設定値を変更している場合は、バージョンアップ前の設定値をメモに取っておきます。

リモートサービスマネージャーが使用するメモリーの量の確認方法は、[バージョン3.1.9以前から最新版にバージョンアップする前の操作\(45ページ\)](#)という説明を参照してください。



**・作成するスレッドの数：**

- バージョン 3.1.9以前から4.0.3以降にバージョンアップする場合：  
作成するスレッドの数の設定値は引き継がれます。設定値をメモに取る必要はありません。手順6に進んでください。
- バージョン 3.1.9以前から4.0.0、4.0.1、または4.0.2にバージョンアップする場合：  
作成するスレッドの数の設定が初期設定に戻ります。  
作成するスレッドの数の設定値を変更している場合は、次のファイルの「DispatcherWorkerThreadCount」の設定値のメモを取っておきます。  
(インストールディレクトリ) \conf\RelayClient.properties  
例：C:\Program Files(x86)\Cybozu\cbrc\conf\RelayClient.properties  
設定値が次のようになっている場合、スレッドの数は15です。  
DispatcherWorkerThreadCount = 15

**6. 最新のインストーラーを入手します。**

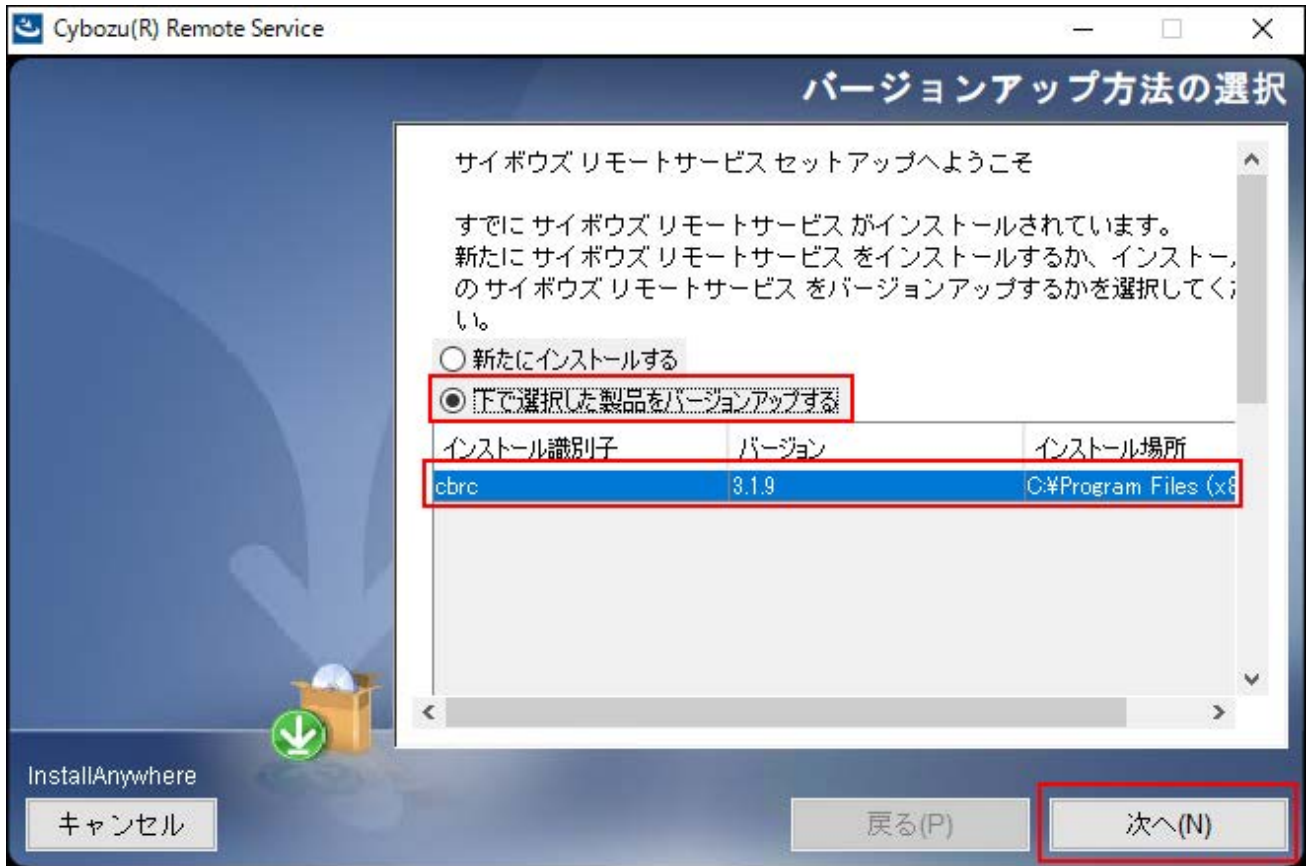
インストーラーは、製品サイトの[ダウンロード](#)ページから、ダウンロードしてください。

**7. サーバーにダウンロードした「cbrs-rc-4.x.x.exe」をダブルクリックします。**

インストーラーが起動します。

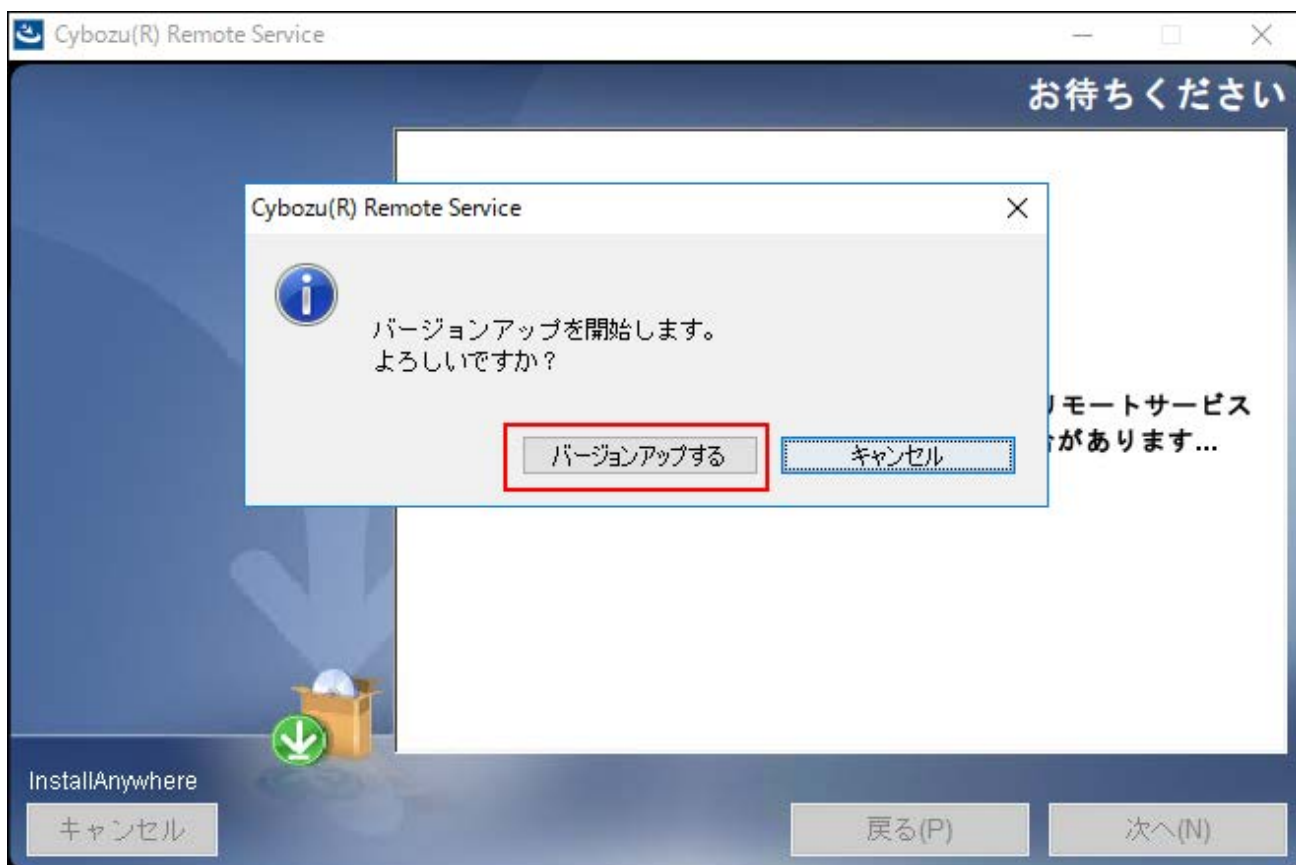
**8. ドロップダウンリストから表示言語を選択し、[OK]をクリックします。**

9. 「下で選択した製品をバージョンアップする」を選択し、バージョンアップする製品を選択してから、[次へ]をクリックします。



10. [バージョンアップする]をクリックします。

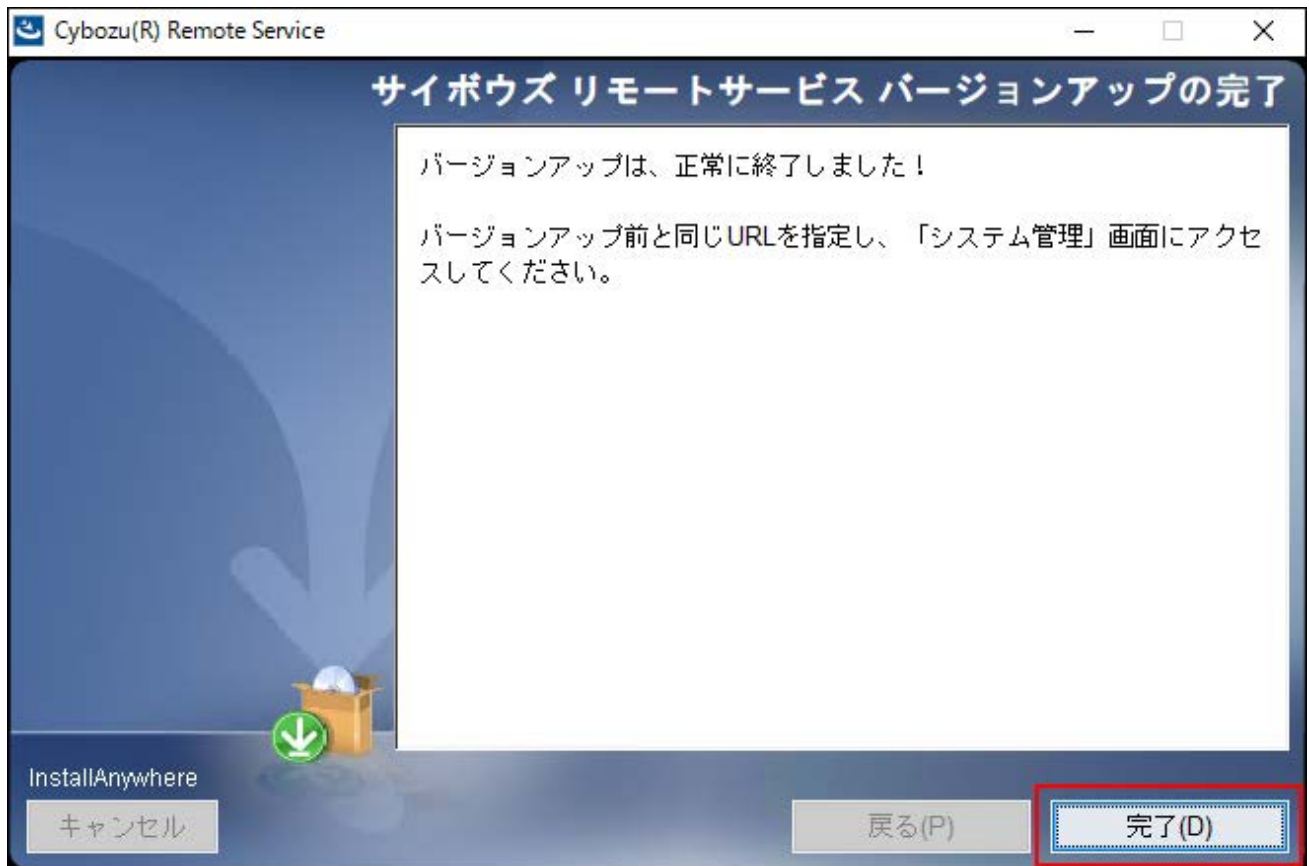
バージョンアップしない場合は、[キャンセル]をクリックし、バージョンアップを中止します。



### 11. [完了]をクリックします。

バージョンアップ前と同じURLを指定し、リモートサービスマネージャーの「ログイン」画面を表示し、動作を確認します。

「ログイン」画面が表示された場合、バージョンアップは正常に終了しています。



## 12. 使用するメモリーの量、および作成するスレッドの数の設定値をカスタマイズしている場合は、最新版へのバージョンアップ時に、再設定します。

次の設定値を手順5でメモに取っている場合は、バージョンアップ前の値に戻し、サービスを再起動します。

### • 使用するメモリーの量：

リモートサービスマネージャーが使用するメモリーの量を編集する手順の詳細は、[バージョン 3.1.9以前から最新版にバージョンアップしたあとの操作\(47ページ\)](#)を参照してください。

### • 作成するスレッドの数：

テキストエディターで次のファイルを開きます。

(インストールディレクトリ) \conf\RelayClient.properties

例：C:\Program Files(x86)\Cybozu\cbrc\conf\RelayClient.properties

「DispatcherWorkerThreadCount」の値を、バージョンアップ前の値に戻します。

## 13. リモートサービスマネージャーにログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- リモートサービスマネージャーのバージョン番号が更新されている。

バージョン番号は、「動作環境」画面から確認できます。詳細は、[製品の動作環境を確認する方法](#)を参照してください。

## リモートサービスマネージャーが使用するメモリーの量を確認、または編集する

Windows環境でリモートサービスマネージャーが使用するメモリーの量を確認したり、編集したりする手順を説明します。

### バージョン 3.1.9以前から最新版にバージョンアップする前の操作

#### 1. Windows PowerShellを開き、次のディレクトリに移動します。

(インストールディレクトリ) \bin\

コマンドの例：

```
cd C:\Program Files (x86)\Cybozu\cbrc\bin\
```

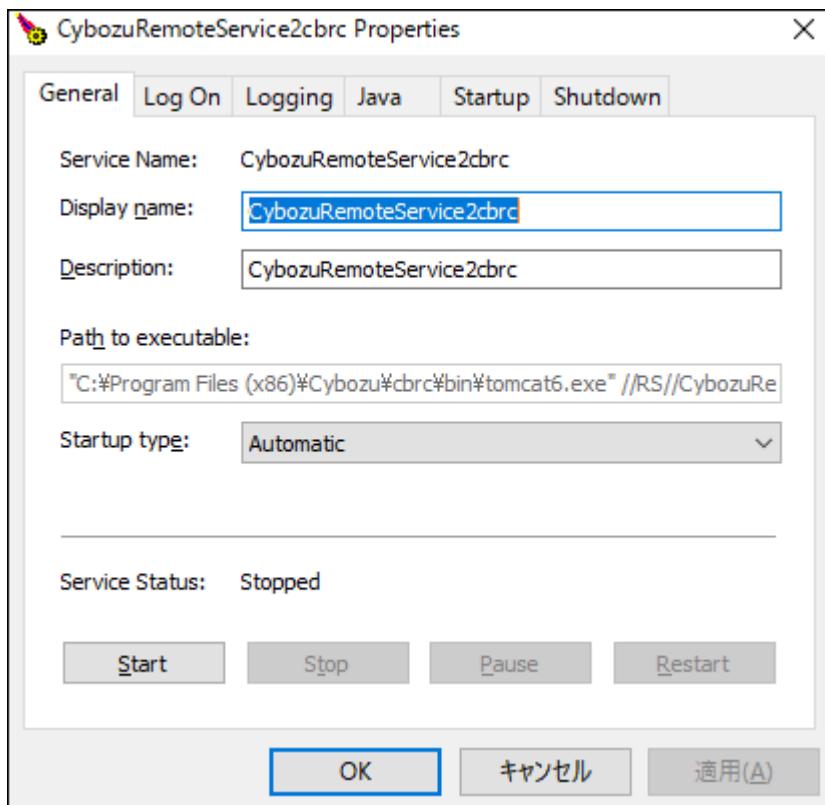
#### 2. 次のコマンドを実行します。

.\tomcat6w.exe //ES//CybozuRemoteService2 (インストール識別子)

コマンドの例：

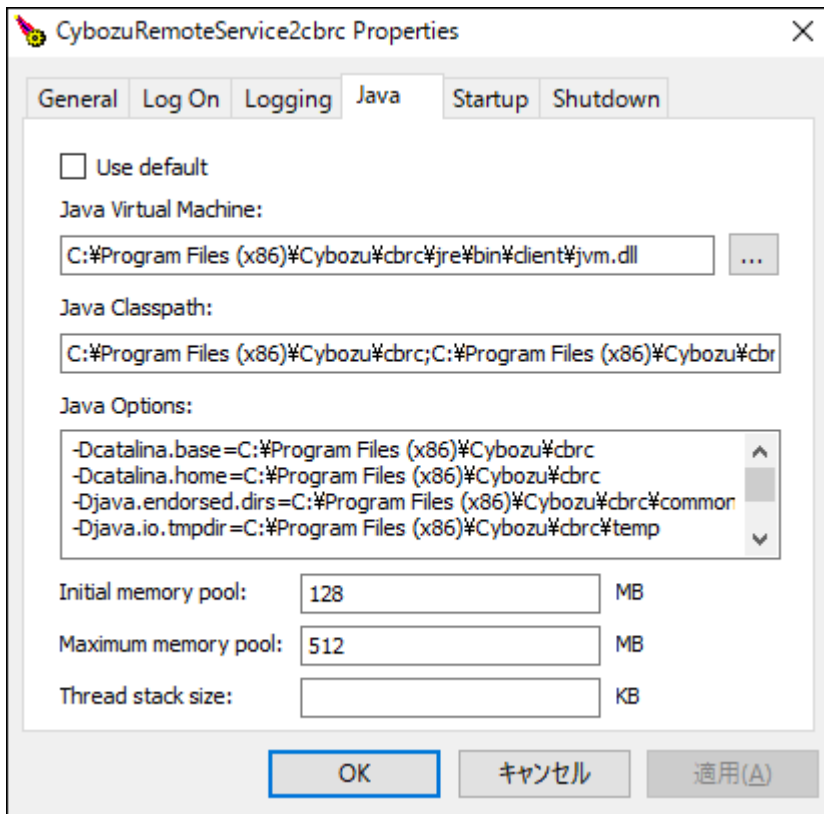
```
.\tomcat6w.exe //ES//CybozuRemoteService2cbrc
```

Webサーバー (tomcat) の設定が開きます。



3. 「Java」 タブを開き、「Maximum memory pool」の値を確認、または編集します。

リモートサービスマネージャーは、最大で「Maximum memory pool」に指定された量のメモリーを使用します。



#### 4. [OK]をクリックします。

バージョン 3.1.9以前から最新版にバージョンアップしたあとの操作

1. C:\Program Files (x86)\Cybozu\cbrc(インストール識別子)\bin配下にある「winsw.xml」をテキストエディターで開きます。

2. 「winsw.xml」の「-Xmx」の値を確認して編集します。

たとえば、メモリーの量を1024MBにしたい場合は、次のように編集します。

```
<argument>-Xmx1024m</argument>
```

3. 「winsw.xml」の編集内容を反映するために、再度「cbrc-rc-4.x.x.exe」を実行し、リモートサービスを上書きインストールします。

上書きインストールは、[Windows環境でバージョンアップする\(39ページ\)](#)の手順7から手順11までの操作を再度実行してください。

### 3.2. Linux環境でバージョンアップする

---

Linux環境で、リモートサービスマネージャーをバージョンアップする手順を説明します。

#### 注意

- 製品へのアクセスが少ない時間帯に、リモートサービスマネージャーをバージョンアップしてください。
- リモートサービスマネージャーのバージョンアップには、root権限が必要です。
- 最新版のリモートサービスマネージャーの[動作環境](#)は、64bit OSです。  
バージョン3のリモートサービスマネージャーを32bit OSで運用している場合は、64bit OSに移行したあとに、最新版のリモートサービスマネージャーにバージョンアップしてください。  
サーバー移行についての詳細は、[サーバーを移行する\(35ページ\)](#)方法を参照してください。

#### 1. バージョンアップする環境を確認します。

詳細は、[インストールの前に確認すること\(5ページ\)](#)を参照してください。

#### 2. リモートサービスマネージャーを停止します。

バージョンアップが完了すると、停止したリモートサービスマネージャーが自動的に起動します。

- バージョン 3.1.9以前から最新版にバージョンアップする場合：  
次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/cbrs_ (インストール識別子) stop
```

- バージョン 4.0.0以降から最新版にバージョンアップする場合：  
次のコマンドを実行します。

```
systemctl stop cbrs_ (インストール識別子)
```



### 3. リモートサービスマネージャーのデータをコピーします。

サーバーの故障やデータの誤削除などに備え、データのバックアップをとります。必ず次のデータをコピーし、外部媒体などに保存します。

- (インストールディレクトリ) /conf/R\*\*\*\*\*.zip  
「R\*\*\*\*\*」はリモートIDです。
- (インストールディレクトリ) /conf/RelayClient.properties
- (インストールディレクトリ) /conf/user.pfx
- (インストールディレクトリ) /data配下のすべてのデータ

バックアップ対象についての詳細は、[バックアップするディレクトリーとファイル](#)を参照してください。

### 4. 最新のインストーラーを入手します。

インストーラーは、製品サイトの[ダウンロード](#)ページから、ダウンロードしてください。

### 5. サーバーにダウンロードしたインストーラー「cbrs-rc-4.x.x.bin」を適当なディレクトリーに保存し、そのディレクトリーに移動します。

### 6. インストーラーをshコマンドで起動します。

```
[root@localhost root]# sh cbrs-rc-4.x.x.bin
```

### 7. 画面を日本語で表示する場合は「2」、英語で表示する場合は「1」を入力してから、Enterキーを押します。

英語表示の画面では、「->2- 日本語」の部分が文字化けします。バージョンアップする環境によっては、日本語が表示されない場合があります。

```
=====
Choose Locale...
-----
1- English
->2- 日本語
CHOOSE LOCALE BY NUMBER:
```

8. 「2」を入力し、Enterキーを押します。

```
=====
===
サイボウズ リモートサービス
-----

サイボウズ リモートサービス セットアップへようこそ

すでに サイボウズ リモートサービス
がインストールされています。
新たに サイボウズ リモートサービス
をインストールするか、インストール済みの サイボウズ
リモートサービス
をバージョンアップするかを選択してください。

1- 新たにインストールする
->2- バージョンアップする

選択する項目の番号を入力するか、
デフォルトを使用する場合は ENTER キーを押してください：
```

9. バージョンアップする製品のインストール識別子を入力し、Enterキーを押します。

```
=====
===
インストール識別子の設定
-----

すでにインストールされているアプリケーションの識別子
は、次のとおりです。
選択した識別子のアプリケーションをバージョンアップし
ます。
cbrc

バージョンアップするアプリケーションの識別子を入力し
て下さい。
```

```
[cbrc]: (デフォルト: cbrc):
```

## 補足

- リモートサービスマネージャーをバージョン 2.2.0以前から最新版にバージョンアップすると、手順9の後に使用許諾契約が表示されます。
  - 使用許諾契約に同意する場合：  
「Y」を入力し、Enterキーを押します。
  - 使用許諾契約に同意しない場合：  
「N」を入力し、Enterキーを押します。バージョンアップを中止します。

## 10. 「1」を入力し、Enterキーを押します。

バージョンアップが始まります。

```
=====
===
```

バージョンアップを開始します。  
よろしいですか？

->1- バージョンアップする  
2- キャンセル

選択する項目の番号を入力するか、  
デフォルトを使用する場合は ENTER キーを押してください:

## 11. 完了メッセージが表示されたら、Enterキーを押してインストーラーを終了します。

これで、バージョンアップは終了です。

```
=====
===
サイボウズ リモートサービス バージョンアップの完了
-----

バージョンアップは、正常に終了しました！

バージョンアップ前と同じURLを指定し、
「システム管理」画面にアクセスしてください。

ENTER キーを押すと、インストーラーが終了します：
```

## 12. Webブラウザを起動し、リモートサービスマネージャーにアクセスします。

アクセスするURLは、次のとおりです。

**http:// (サーバーのIPアドレスまたはFQDN) : (リモートサービスマネージャーが使用するポート番号) /login**

FQDNについての詳細は、[FQDNとは\(8ページ\)](#)という説明を参照してください。

- サーバーのIPアドレスが「192.168.1.1」、使用するポート番号が「8080」の場合の例：

http://192.168.1.1:8080/login

- FQDNが「bozuman.co.jp」、使用するポート番号が「8080」の場合の例：

http://bozuman.co.jp:8080/login

## 13. リモートサービスマネージャーにログインし、動作を確認します。

次のことを確認します。

- 正常に動作する。
- バージョンアップ前のデータを、正常に閲覧または表示できる。
- リモートサービスマネージャーのバージョン番号が更新されている。

バージョン番号は、「動作環境」画面から確認できます。詳細は、[製品の動作環境を確認する方法](#)を参照してください。

## 3.3. サイボウズ Officeとリモートサービスをあわせてバージョンアップする

次の製品を同時にバージョンアップする手順を説明します。

- **リモートサービスマネージャー：**

バージョン2.3.0以前を最新バージョンにバージョンアップする

- **サイボウズ Office パッケージ版：**

Office 9以前を最新版のOffice 10にバージョンアップする

### 注意

- Office 9以前とOffice 10パッケージ版では、動作環境が一部異なります。作業の前に動作環境を確認してからバージョンアップしてください。

[動作環境\(サイボウズ Office 10\)](#)

- バージョンアップした製品は、古いバージョンに戻せません。作業の前にデータをバックアップすることを推奨します。

## システム管理者の作業

ここでは、Office製品だけをリモートサービスで利用している場合を例に説明します。

### Steps:

- Step 1 [Office製品をOffice 10にバージョンアップします。](#)
- Step 2 [リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。](#)
- Step 3 [リモートサービスマネージャーに登録しているOffice製品の情報を更新します。](#)

**Step  
1**

**Office製品をOffice 10にバージョンアップします。**

Office 10 : [Office 7～Office 9をOffice 10にする\(Windowsの場合\)](#)

Office 10 : [サイボウズ AGやOffice 6をOffice 10にする\(Windowsの場合\)](#)

### Step 2

リモートサービスマネージャーを最新版にバージョンアップします。

リモートサービス : [バージョンアップする\(Windows環境\)\(39ページ\)](#)

### Step 3

リモートサービスマネージャーに登録しているOffice製品の情報を更新します。

リモートサービス : [サイボウズ製品を更新する](#)

## ユーザーの作業

---

Office製品だけをお使いの場合、特に必要な作業はありません。

リモートサービスのクライアント証明書を差し替えている場合は、リモートサービスのアクセスURLが変更されている可能性があります。

新しいURLを、リモートサービスの利用ユーザーに連絡してください。

新しいURLを取得した後のユーザーの操作は、次のページを参照してください。

[Webブラウザからのアクセス](#)

## 4章 アンインストール

リモートサービスマネージャーをアンインストールする手順を説明します。

### 4.1. Windows環境でアンインストールする

Windows環境で、リモートサービスマネージャーをアンインストールする手順を説明します。

#### 注意

- 削除したデータは元に戻せません。アンインストールする前にデータをバックアップしておくことを推奨します。
- リモートサービスマネージャーのアンインストールには、Administrator権限が必要です。

#### 補足

- インストールディレクトリ\インストール識別子) にある「uninstall.exe」をダブルクリックしても、アンインストーラーを起動できます。

1. Windowsのスタートメニューから、コントロールパネルを開きます。
2. すべてのコントロールパネル項目から、「プログラムと機能」を開きます。
3. アンインストールするリモートサービスを右クリックし、「アンインストールと変更」をクリックします。



#### 4. 「アンインストール」画面で、[次へ]をクリックします。

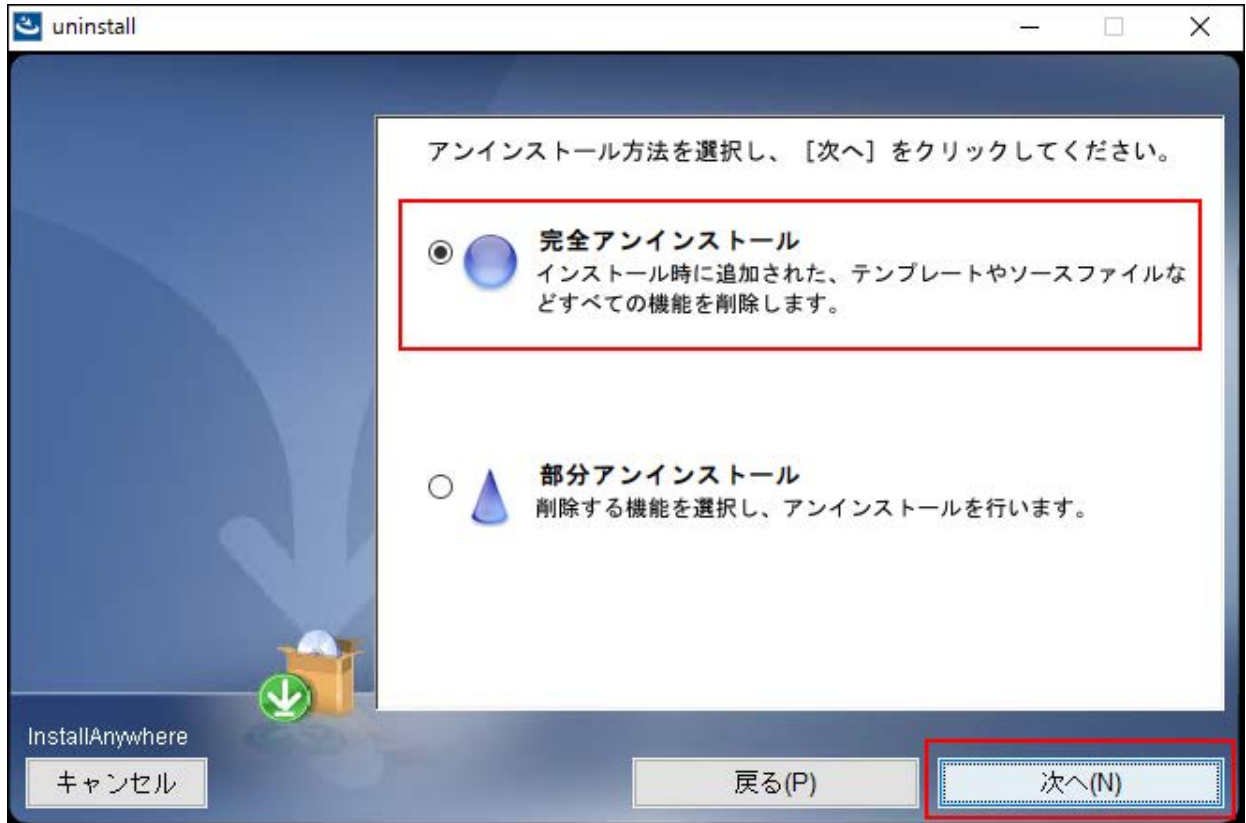




## 5. アンインストール方法を選択し、アンインストールを実行します。

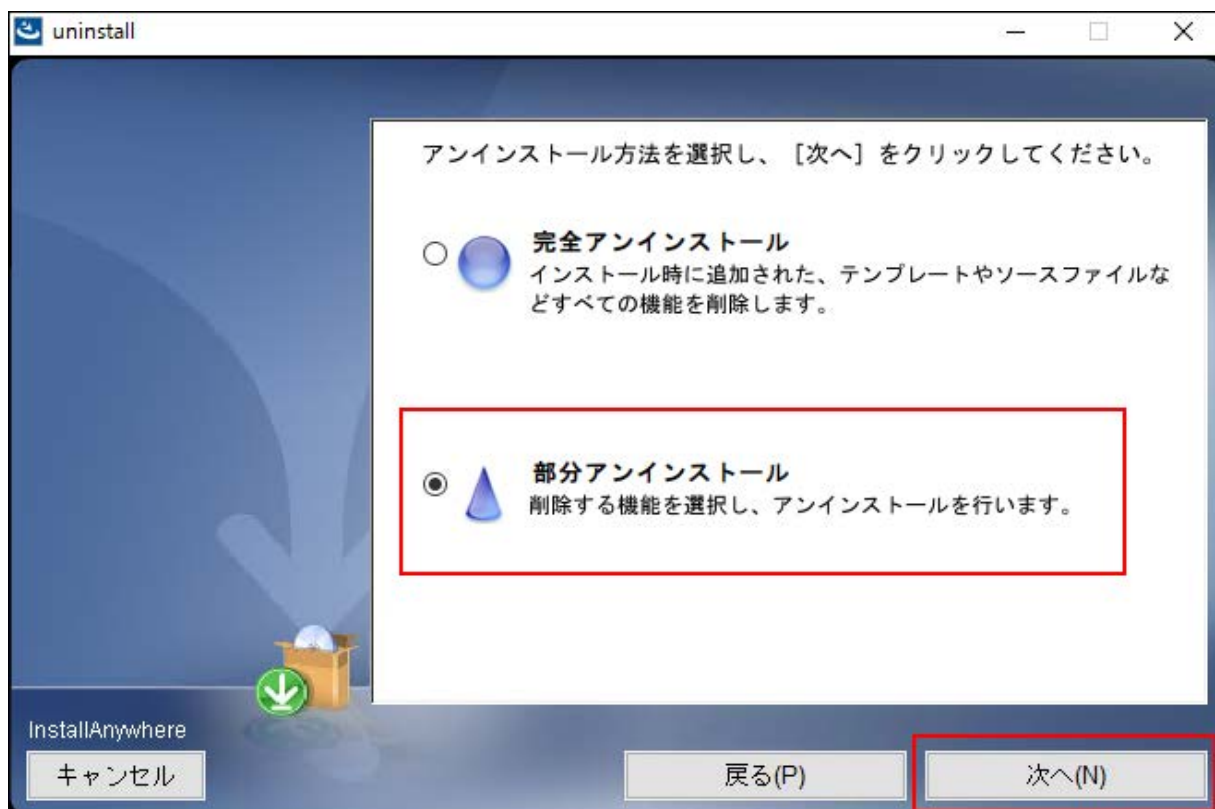
- 完全にアンインストールする場合：

「アンインストール方法の選択」画面で、「完全アンインストール」を選択し、[次へ]をクリックします。

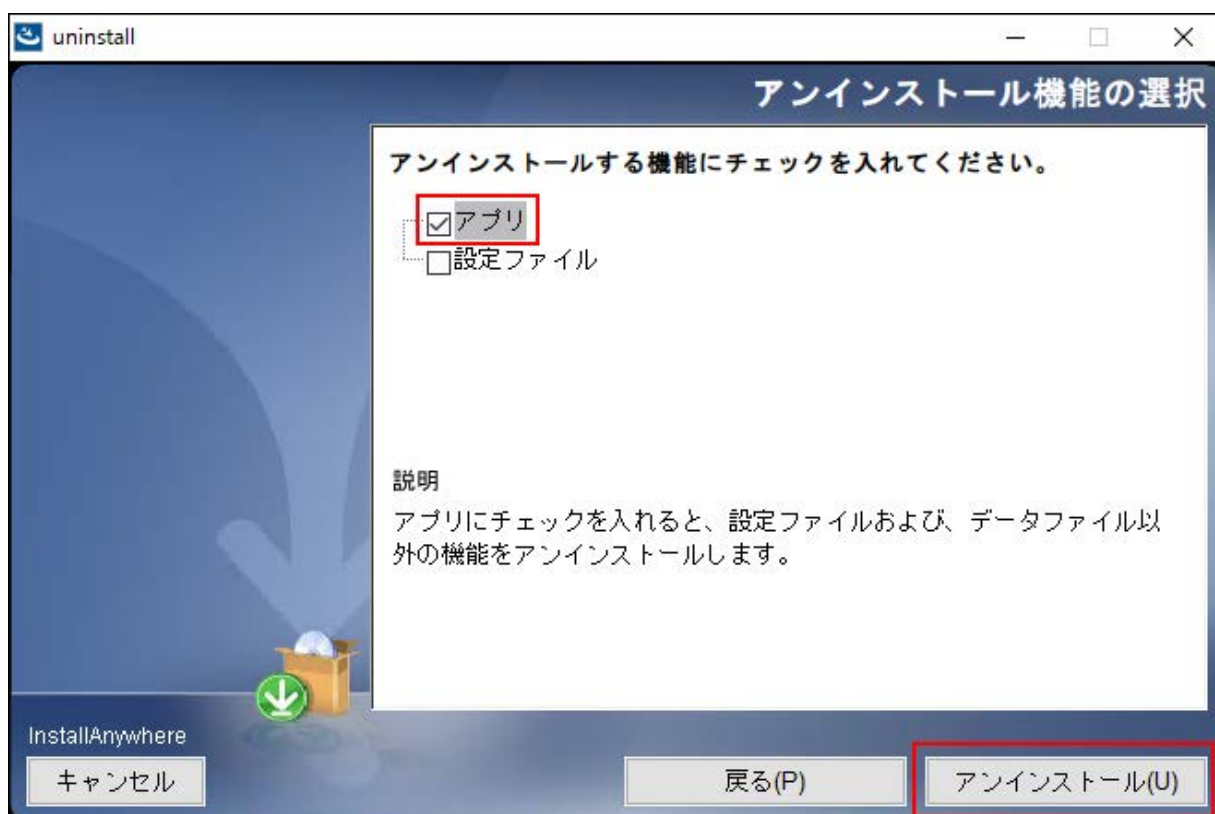


- 設定ファイルを残す場合：

1. 「アンインストール方法の選択」画面で、「部分アンインストール」を選択します。

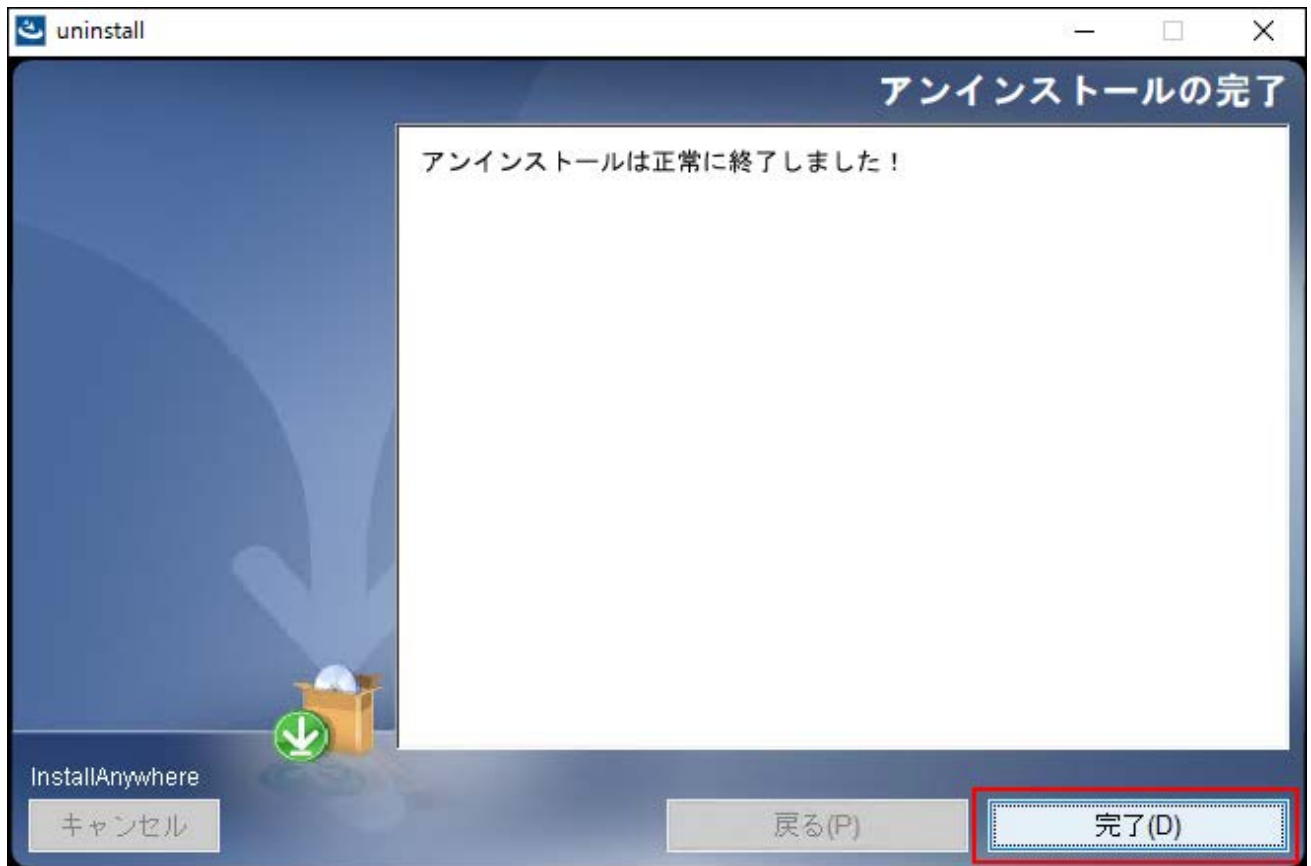


2. 「アンインストール機能の選択」画面で、「アプリ」のチェックボックスを選択し、[アンインストール]をクリックします。



## 6. 「アンインストールの完了」画面で、[完了]をクリックします。

これで、アンインストールは完了です。



## 4.2. Linux環境でアンインストールする

Linux環境で、リモートサービスマネージャーをアンインストールする手順を説明します。

### 注意

- 削除したデータは元に戻せません。アンインストールする前にデータをバックアップしておくことを推奨します。

- リモートサービスマネージャーのアンインストールには、root権限が必要です。
- 

### 1. スーパーユーザーでログインします。

suコマンドを使い、root権限でログインします。

### 2. リモートサービスマネージャーのインストールディレクトリに移動します。

### 3. アンインストーラーをshコマンドで起動します。

```
[root@localhost root]# sh uninstall
```

### 4. Enterキーを押します。

```
=====
リモートサービス をアンインストール
-----
```

リモートサービス をアンインストールします。

この操作を行うと、

インストール時に作成されたすべての機能が削除されます。

続行するには ENTER キーを押します：

### 5. アンインストールの方法を選択し、アンインストールを実行します。

```
=====
アンインストール方法の選択
-----
```

アンインストールの方法を番号で入力するか、

デフォルトのままにする場合は[Enter]キーを押します。

->1- 完全アンインストール：

インストール時に追加された、テンプレートやソースファイルなどすべての機能を削除します。

2- 部分アンインストール：

削除する機能を選択し、アンインストールを行います。

[1/2] :

- 完全にアンインストールする場合：  
「1」を入力し、Enterキーを押します。
- 設定ファイルを残す場合：  
「2」を入力し、次の手順で「アプリ」を選択し、Enterキーを押します。

=====  
アンインストール機能の選択

-----  
選択または選択解除する機能の番号を半角のコンマで区切って入力してください。 機能の説明を表示するには、「?<番号>」と入力します。 説明を読み終わったら<RETURN>を押してください。

- 1- [ ] アプリ
- 2- [ ] 設定ファイル

アンインストールする機能の番号を入力してください。 :

## 6. 次のメッセージが表示されたら、アンインストール作業は完了です。

=====  
アンインストールの完了

© Cybozu